地質学雑誌　第126巻　第4号（通巻1495号）付録　令和2年4月15日発行（毎月1回15日発行）

第127年学術大会（2020名古屋）

予告記事

会期：2020年9月9日～ 11日

日本地質学会 *News*

Vol.23 No.4 April 2020

第11回 惑星地球フォトコンテスト審査結果

今年の応募点数は374点で，昨年よりも26点増えました．昨年の入選は12点のうち6点が夜の作品で，さらに増えたら星景写真コンテストになると心配しましたが，今年は夜の写真の入選は1点のみで本来の姿に戻った形です．
今年の入選作の特徴は，単なる風景写真の延長ではなく，地質をよく理解して撮影された力作が増えたことです．また作者の解説文も充実したものが多く，作品と合わせて読むと地質への理解が深まります．本コンテストは今年で11回目を迎えますが，ようやく普通の風景写真コンテストとは異なる，本コンテストの趣旨が深く理解されつつあることを嬉しく思います．
最優秀賞の「鷹島」，優秀賞の「橋杭岩」は地質をよく理解された上で写真の技術レベルも高く，国内の身近な場所にも素晴らしい地質があることを私たちに教えてくれます．来年以降の応募者にとっても良い指針になるでしょう．

（総評：審査委員長　白尾元理）

最優秀賞：鷹島の奇岩
撮影者：佐藤悠大（福岡県）

撮影場所：長崎県松浦市鷹島北部
審査委員長講評：昨年も入選した佐藤さんの作品です．輝く夕陽と雲，色鮮やかな砂岩層，海岸に押し寄せる波しぶき．最近のカメラや画像処理ソフトには広い階調を再現できるHDR機能がついているものが多くありますが，このような構図ではカバーしきれません．NDフィルターを使った0.8秒露出で，白糸のような海の描写も秀逸です．［**本誌表紙写真**］

第11回惑星地球フォトコンテスト展示会
5月19日（火）～31日（日）
場所：東京パークスギャラリー（上野グリーンサロン内）
（台東区上野公園）
入場無料，どなたでもお気軽にお立ち寄り下さい．

第11回惑星地球フォトコンテスト表彰式［中止］
~~5月23日（土）~~

！重要！
新型コロナウィルス感染拡大防止のため，4月15日現在，7都府県に「緊急事態宣言」が発出されています．名古屋大会の開催可否や実施形態については，社会状況を注視しつつ慎重に判断していく予定です．今後本予告記事の内容から大幅な変更の可能性もございます．あらかじめご承知おきいただきますようお願いいたします．

日本地質学会第127年学術大会　名古屋大会

名古屋大学東山キャンパス（愛知県・名古屋市）にて，2020年9月9日（水）～11日（金）に開催

日本地質学会は，愛知県名古屋市の名古屋大学東山キャンパスにて，第127年学術大会（2020年名古屋大会）を9月9日（水）～11日（金），巡検（見学旅行）を8日（火），12日（土）と13日（日）に開催します．

名古屋は日本のほぼ中心に位置し，交通の便もよく，皆様の旅程も容易に計画することができます．またすべての学会会場を東山キャンパスの西側に位置する教養教育院に設け，場所的に集中した複数の会場でコンパクトに行う予定です．地下鉄の「名古屋大学」駅１番出口を出て5分くらいで到着できます．

大会期間中には多様な学問領域が議論されます．この学問的な多様さは，生物の多様さと同様に，学問領域の健全さ，強さを示しています．研究領域が広く，様々な手法で問題と取り組み，異なる研究領域の研究者と触れ合うことが地質学の強みであると同時に，新たな展開を生むことにもつながるはずです．特に若手研究者にとって，所属する大学以外の研究者と触れ合い，議論し，情報交換を行うことが，新しい考えを生む種になります．これからの地質学を支える若手が，名古屋の大会で新たな展開を得られることを期待します．さらに，参加者全員にとって，大会が自身の研究成果の発表の場，さらなる研究の展開の場，情報交換の場，そして「旧友」に出会い，近況を互いに語らう場となることも期待しています．

名古屋近辺では，日本の地質を見直すきっかけとなった美濃帯の中古生界，愛知県の石にも選定された師崎層群の深海性化石群を始め，多様な地質体を観察することができます．それらのうちから，巡検として今回は以下の8つのコースを企画しました．名古屋城（石垣などの岩石の観察），舟伏山周辺（美濃帯の付加体），新城市周辺（領家帯・三波川帯），知多半島（中新統師崎層群），揖斐川町（接触変成岩と花崗岩類），紀伊半島中央部（四万十帯，三波川帯，変形岩），そして瀬戸層群（陶土層）です．多くの会員のみなさまのご参加をお願いいたします．

名古屋大会が研究に関する活発な議論の場となり，これからの地質学を発展させる機会となることを望んでいます．そのために，大会実行委員会一同，開催に向けて頑張りたいと思います．皆様の127年学術大会へのご参加を心からお待ちしています．名古屋に行こみゃあ！

各種申込は，従来と同様の参加登録システムを利用します．お支払いは銀行振込またはクレジットカードによる支払いが可能です．発表についても演題登録システムを利用したオンライン登録が可能です．なお，大会準備がスムーズに運ぶよう，締切日の厳守をお願いいたします．

名古屋大会に関する最新情報は，学会ホームページ（http：//www.geosociety.jp/）の「2020名古屋大会HP」に掲載します．

1．日　　程

日　程	行　事
9月8日（火）	プレ巡検（日帰り）
9月9日（水）	セッション発表（口頭，ポスター），ランチョン，各賞表彰式・記念講演会，懇親会
9月10日（木）	シンポジウム，セッション発表（口頭，ポスター），ランチョン，夜間小集会
9月11日（金）	シンポジウム，セッション発表（口頭，ポスター），ジュニアセッション（旧小さなESのつどい），ランチョン，夜間小集会，若手会員のための業界研究サポート
9月12日（土）	アウトリーチ巡検（日帰り），ポスト巡検（日帰り）4コース，ポスト巡検（1泊2日）2コース
9月13日（日）	市民講演会
9月20日（日）～22日（火祝）	地質情報展

2．会　　場

メイン会場・各賞表彰式・記念講演会：名古屋大学東山キャンパス・教養教育院全学教育棟（名古屋市千種区不老町　地下鉄名城線「名古屋大学」1番出口から徒歩5分）

市民講演会（9/13）：名古屋大学東山キャンパス理学部坂田・平田ホール（名古屋市千種区不老町　地下鉄名城線「名古屋大学」２番出口から徒歩5分）

地質情報展（9/21）：名古屋市科学館（名古屋市中区栄二丁目17番1号芸術と科学の杜・白川公園内　地下鉄東山線・鶴舞線「伏見」下車，4・5番出口から徒歩5分）

3．各賞表彰式・記念講演

日程：2020年9月9日（水）15:30～17:30（予定）
会場：名古屋大学東山キャンパス教養教育院全学教育棟S30講義室

4．普及行事・関連行事

（1）地質情報展2020あいち —名古屋発，20億年のジオ・トラベル—

日程：2020年9月20日（日）～22日（火・祝）（時間はいずれも予定）
　9月20日（日）9:30～17:00（ただし，入場は16時30分まで）
　9月21日（月）9:30～17:00（ただし，入場は16時30分まで）
　9月22日（火）9:30～16:00
会場：名古屋市科学館（予定），名古屋市中区栄二丁目17番1号
料金：無料．ただし，高校生以上は名古屋市科学館の入館料が必要です．
主催：日本地質学会，産総研 地質調査総合センター，名古屋市科学館（予定）
内容：愛知県の地質現象や地震，鉱物資源などについてパネルや映像，標本を使って展示・解説する「地質情報展2020あいち」を開催します．化石レプリカ作成などの体験学習コーナーなども用意し，実験や実演を通じて小学校入学前のお子様から大人まで，楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです．ぜひ，「地質情報展2020あいち」にご来場ください．
お問い合せ先：産総研 地質調査総合センター 地質情報展企画運営事務局
TEL：029-861-3540
E-mail：johoten2020-ml@aist.go.jp

（2）市民講演会「動物の進化を探る～古生物学の世界～」

1. 絶滅動物の復元方法、教えます（藤原慎一・名大博物館）
2. 動物の初期進化を探る～モンゴルのフィールド調査より（大路樹生・名大博物館）

日時：2020年9月13日（日）13:30～15:00（無料，事前申込不要）
会場：名古屋大学東山キャンパス理学部坂田・平田ホール

（3）日本地質学会ジュニアセッション（旧　小さなEarth Scientistのつどい）～第18回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～

日本地質学会地学教育委員会では，地学普及行事の一環として，地学教育の普及と振興を図ることを目的として，学校における地学研究を紹介する「地学研究」発表会をおこなっています．今年から，名称を「日本地質学会ジュニアセッション～小，中，高校生徒「地学研究」発表会～」と変更して実施します。名古屋大会でも，小・中・高等学校の地学クラブの活動，および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を募集いたします．愛知県やその近郊，また中部地方の学校，さらには全国の学校の参加をお待ちしています．会場は研究者も発表するポスター会場内に，特設コーナーを用意いたします．同時並行で研究者の発表も行われます．今回は平日開催ですので，児童・生徒の参加が難しい学校も多くあると予想されます．その場合は，発表ポスターのみをお送りいただいても結構です．コアタイムの時間は従来通り設けますが，審査は，昨年山口大会でも採用されたデジタルポスター審査を取り入れることとします（当日表彰は行いません）．この会を通じて日頃の研究成果を披露していただき，地質学，地球科学への理解が深まって，未来を担う生徒たちの学習意欲への良い刺激と励みになることを願っております．なお，参加証とともに，優秀な発表に対しては審査のうえ，「優秀賞」などの賞を授与いたします．またポスター毎に評価・コメント作成し後日お送りします．

下記の要領にて参加校を募集します．

1）日時：2020年9月11日（金）9:00～15:00頃（コアタイム13:00～14:20を予定）
2）場所：名古屋大会ポスター会場（名古屋大学東山キャンパス内）
3）参加対象
- 小，中，高校地学クラブならびに理科クラブ等の活動成果の発表
- 小，中，高校の授業における研究成果の発表
- 活動，研究内容は地学的なもの（地質や気象などの地球科学・環境科学，天文など）

4）参加申込締切：７月27日（月）
5）ポスター発表（ポスターサイズ：縦210cm×横90cm）ポスターのほかに標本等を展示される場合には，パネルの前に机を用意します．参加申し込みの際に，その旨を記載して下さい．その場合はポスターの下側が隠れる事をご了承下さい．当日参加する発表者は決められた時間（および随時）ポスターの前に待機し説明をしていただきます．なお，今大会は平日開催のため，また遠隔地および学校行事等のために児童・生徒が参加できない場合は，ポスターのみをお送りいただいても結構です．
6）デジタル審査の方法：各校のポスターと講演要旨を一定期間学会HP内（要ログインページ）にて閲覧できるようにし，学会理事が各ポスターへの評価コメントを作成します．それらのコメントも含めて審査委員が採点・評価した後，地学教育委員会が審査結果を集計し，結果発表を行います．後日各ポスター発表に対するコメントや評価をお送りします．
7）参加費　無料（参加者・引率者とも），開催中の研究者の発表，講演も聴くことができます．
8）派遣依頼　参加者・引率者については学校長宛，日本地質学会より派遣依頼状を出します．
9）問い合わせ・申込先：所定の書式（学会HPよりダウンロード可）をFAXまたはe-mailで下記宛にお送り下さい．

日本地質学会地学教育委員会（担当　三次）
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F
TEL：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

（4）アウトリーチ巡検

「名古屋城の石垣を見る」
日時：2020年9月12日（土）（日帰り）9:20　地下鉄名城線「市役所」２番出口集合，12:30　場内解散
参加対象：一般市民を優先
参加費・申込等：p.（7）巡検の申込および巡検コース一覧　A班の欄をご参照下さい
（注意）中学生以下の場合は，必ず保護者同伴でお申し込み下さい．また，長時間の歩行や足場の悪い場所で露頭観察を行う場合もあります．巡検の性質上，自立歩行が難しい方，介助が必要な方のご参加はご遠慮頂いております．

（5）若手会員のための業界研究サポート

地質企業に興味のある学生・大学院生および指導にあたっている教員の方々を対象とし，地質企業の現状や求める人材について語り合う交流会を目的としています．詳細は，大会プログラム号に掲載予定です．
日程：2020年9月11日（金）午後（予定）

講演申込に関するご案内

演題および原稿締切：7月1日（水）18:00（オンライン）

シンポジウム，セッションとも演題登録・要旨投稿は名古屋大会HPにアクセスし，オンライン入力フォームに従ってお申込下さい．発表セッションや会場・発表日時等は行事委員会が決定し，8月上旬に通知します．やむを得ず郵送で申し込む場合は，学会事務局までお問い合わせ下さい．発表申込書等必要な書式をお送りします．提出書類，要旨原稿をご準備の上，6月24日（水）必着で学会事務局までお送り下さい．講演をされる方は，別途事前に大会参加登録も行って下さい．

5. シンポジウム

今大会では3件のシンポジウムを開催します．内容についてはp.（11）「シンポジウム・セッション一覧」をご覧下さい．

シンポジウム発表は招待講演のみです．世話人は会員・非会員を問わず招待講演を依頼できます（締め切りました）．いずれの発表も通常のセッション同様，締切までに演題登録・要旨投稿を行って下さい．発表時間は世話人が決定します．シンポジウム発表にはセッション発表における1人１件の制約（下記）が及びませんので，シンポジウムで発表する会員は別途セッションにも発表を申し込めます．また非会員招待講演者に限り大会参加登録費を免除します（講演要旨集は付きません）．シンポジウムの講演要旨もセッション発表と同じ様式・分量です．p（5），（10）を参照して要旨を作成して下さい．

6. セッション発表の募集

セッション発表を下記要領で募集します．

（1）セッションについて

今大会では6件のトピックセッションと25件のレギュラーセッション，およびアウトリーチセッションを用意します．各セッションの詳細についてはp.（11）「シンポジウム・セッション一覧」をご覧下さい．

（2）発表に関するルール（条件・制約）

1）会員は，全32セッションのうち１つまたは複数（下記）で発表することができます．原則，非会員は発表できません．発表を希望する非会員は6月24日（水）までに入会手続きをして下さい（入会申込書が届くまで発表申込を受理しません）．共催団体の会員は共催セッションへの発表申込が可能です．

2）口頭発表あるいはポスター発表を1人1題申し込めます．ただし，発表負担金（1,500円）を支払うことでもう１題（最大2題）の申し込みが可能です．発表可能な組み合わせは下記を参照して下さい．

発表可能な組み合わせ例

１件目	２件目	申込可否	発表負担金
セッションA：口頭1件	セッションA：口頭1件	×	
セッションA：ポスター1件	セッションA：ポスター1件	×	
セッションA：口頭1件	セッションA：ポスター1件	○	+1,500円
セッションA：口頭1件	セッションB：口頭1件	○	+1,500円
セッションA：ポスター1件	セッションB：ポスター1件	○	+1,500円

※セッション招待講演も同様に本ルールが適用されます．ただし，招待講演の場合は，発表負担金は発生しません．

※これらの制約はアウトリーチセッションには適用しません（後述）

3）共同発表（複数著者による発表）の場合は，上記「1人１題，ただし発表負担金支払いによりもう１題可」の制約を発表者に対して適用します．その際，発表者は筆頭でなくても構いません（筆頭者に会員・非会員等の条件はありません）．講演要旨では，発表者氏名を下線（アンダーライン）表示にして下さい．

（3）アウトリーチセッション（OR）

ORセッションは，会員による研究成果の社会への発信（アウトリーチ）を学会として力強くサポートするために，トピック・レギュラーと並ぶ第三のカテゴリーとして設けられているものです．市民に対するアウトリーチ活動に関心のある会員はぜひお申し込み下さい．

1）トピック・レギュラーと同様の演題登録・要旨投稿が必要です．要旨校閲（後述）もトピック・レギュラーと同様に行います．要旨は講演要旨集に収録され，正式な学会発表扱いになります．

2）本セッションの発表には，上記の発表に関するルール（1人1題，ただし発表負担金を支払えばもう１題可）を適用しません．例えば，レギュラーセッションで１題発表する会員がアウトリーチセッションでも発表する場合，発表負担金はかかりません．ただし，同一発表者（＝発表申込者）が本セッションで発表できるのは1題のみとします．

3）ポスター会場には一般市民の方にも入場いただけるようできるだけ配慮します．

4）市民には講演要旨のコピーを配布しますが，これとは別に資料を独自に配布していただいても構いません（ただし発表者負担）．

5）スペース等の都合から，募集件数は10件程度とします．募集件数を上回る応募があった場合は行事委員会が採否を検討します．

6）講演申し込み時に優秀ポスター賞のエントリーを希望すれば優秀ポスター賞の選考対象になります．

（4）招待講演

招待講演者をp.（11）「シンポジウム・セッション一覧」およびp.（17）「セッション別招待講演の紹介」に示しました．招待講演も期日までに一般発表と同様に演題登録・要旨投稿が必要です．非会員招待講演者の場合は世話人が代理でオンライン入力することも可能です．非会員招待講演者に限り参加登録費を免除します（講演要旨集は付きません）．また，招待講演も発表に関するルールの適用対象となりますが，発表負担金は発生しません．

(5) セッション発表申込の際の注意点

1) 発表方法は「口頭」「ポスター」「どちらでもよい」のいずれかを選択して下さい（アウトリーチセッションはポスターのみ）．締切後の変更はできません．会場の都合のため，発表方法（口頭・ポスター）の変更をお願いすることがあります．
2) 発表題目と発表者氏名は，登録フォームと講演要旨の両方を一致させて下さい．
3) 発表希望セッションを必ず第2希望まで選んで下さい．
4) 関係する一連の発表があるときは，必要に応じて発表順希望等をコメント欄に入力して下さい（ご希望に沿えない場合があります）．

7．講演要旨（シンポ・セッションすべてに共通）

(1) 講演要旨の投稿

講演要旨はA4判１枚とし，PDFファイルのオンライン投稿により受け付けます．PDFファイルをそのままWEB上で公開します．文字サイズ，字詰め，鮮明度等に注意して下さい．やむを得ず郵送する場合は，オリジナルか鮮明なコピーを１枚郵送して下さい．FAXやe-mailでの投稿は受け付けません．原稿の体裁は，p.（10）のフォーマットを参照して下さい（特に，発表者氏名には忘れずに下線を引いて下さい（単著の場合は下線不要））．大会HPの「PDFファイルの作り方」，wordテンプレートもあわせてご覧下さい．

(2) 講演要旨の倫理責任と著作権管理

本学会は，本学会出版物への投稿原稿に対して，その倫理性について著作者が保証する「保証書」および著作権を本学会へ譲渡することに同意する「著作権譲渡等同意書」に署名捺印をして提出していただいております．学術大会の講演要旨投稿では，オンライン画面上で「保証書」と「著作権譲渡等同意書」の内容に同意していただいてから電子投稿画面に進めるようになっています．

(3) 講演要旨における文献引用

引用した文献の情報を必ず記載して下さい．講演要旨では文献記載の簡略化が認められています．著者名，発表年，掲載誌名など，文献を特定できる必要最低限の情報を明記して下さい．

(4) 講演要旨の校閲

行事委員会は，すべての（招待講演を含む）講演要旨について，学会の目的ならびに倫理綱領（定款第4条）に反していないかという点について校閲を行います．校閲によりいずれかの条項に反していると判断された場合，行事委員会は修正を求めるか，あるいは発表申込を受理しないことがあります．行事委員会の措置に同意できない場合，発表申込者は法務委員会（学会事務局気付）に異議を申し立てることができます（異議申立てに関する詳細は大会HPに掲載）．

8．発表要領（シンポ・セッションすべてに共通）

(1) 口頭発表

1) **発表時間**：セッションの発表時間は，招待講演を除き，トピック・レギュラーとも１題15分です（討論時間3〜5分と演者交代時間を含む）．シンポジウムの発表時間は世話人が決めます．発表者は討論時間を必ず確保して下さい．シンポ・セッションが円滑に進むように次の注意点をよくご確認下さい．
2) **パソコンの使用**：発表はできるだけ会場備え付けのWindowsパソコン（OSはWindows 10；PowerPoint，2010，2013，2016対応）をご使用下さい（ただし，Macご利用の方と動画を使用する方はご自身のパソコンをご用意下さい）．プロジェクター解像度は1024×768ドット（XGA）です．PowerPointファイルをUSBフラッシュメモリで持参し，パソコンにコピーして下さい（シンポ・セッション終了後，世話人がファイルを削除します）．データ作成の際は，フォントは特殊なものではなく，PowerPointに設定されている標準的なものを使用し，サイズは標準画面（4：3）で作成してください．また，発表者は，シンポ・セッション開始前に発表会場で正常に投影されることを確認して下さい．
3) **事前の接続・投影確認**：ご自身のパソコンで発表する方も，シンポ・セッション開始前に発表会場において正常に接続・投影されることを確認して下さい．事前に解像度（上記）の設定をご確認下さい．会場の接続端子はD-sub15ピン（ミニ）です．パソコンによってはコネクタが必要になる場合がありますので必ずご持参下さい（会場にはありません）．確認作業の混雑とそれによる講演開始の遅れを防ぐため，早めの確認作業をお願いします．なお，発.表者が事前確認を怠ったために発表時にトラブルが生じても時間延長等の措置は取りません．

(2) ポスター発表

1) 全てのポスターは１日間掲示できます．コアタイムでは必ずポスターの説明を行って下さい．ポスター設置・撤去等については本誌7月号掲載予定のプログラム記事をご覧下さい．
2) ポスターは必ず縦210cm，横90cm以内で作成して下さい．
3) 発表番号，発表タイトル，発表者名をポスターに明記して下さい．
4) コンピューターによる演示等も許可しますが，機材等はすべて発表者が準備して下さい．また，電源は確保できませんので，必要であれば予備のバッテリーを用意して下さい．発表申込の際に機器使用の有無や小机の必要性等をコメント欄に記入し，事前に世話人にもご相談下さい．
5) 運営規則第16条２項（8）により，優れたポスター発表に対して「日本地質学会優秀ポスター賞」を授与します．優秀ポスター賞はエントリー制です．エントリーを希望される発表者は，講演申込時に優秀ポスター賞エントリー希望を選択してください．発表当日，エントリーされた講演番号のボードに「エントリー講演」と書かれた紙が貼付してありますので，ご確認ください．この紙はポスター掲示後も見える位置に貼付しておいてください．貼紙が見えない場合は審査の対象になりません．

(3) 発表者の変更

口頭，ポスター発表に関わらず，あらかじめ連記されている共同発表者内での変更は認めますが，必ず事前に行事委員会に連絡して下さい．この場合もセッション発表者については6項の（2）の条件を適用します．

(4) 口頭発表の座長依頼

各セッション会場の座長を発表者に依頼することがあります．その際はご協力をお願いします．座長には，会場での司会進行および当日の講演キャンセルの確認などを行っていただきます．

大会参加登録のご案内

申込締切：オンライン：8月19日（水）18:00，FAX・郵送：8月11日（火）必着

参加登録に関わるお申込（参加，巡検，懇親会，弁当）は，オンラインによる大会専用参加登録システム（会員・非会員にかかわらずどなたでも申込可）をご利用の上，お申し込み下さい．今大会より講演要旨集の冊子体は作成・販売はいたしません．

郵送で申し込む場合は，学会事務局までお問い合わせ下さい．郵送用申込書等必要な書式をお送りします．提出書類をご準備の上，8月11日（火）必着で学会事務局までお送り下さい．

講演申込をされる方も別途忘れずに大会参加登録をして下さい．会員が同伴する非会員の家族等（以下，同伴者）についても懇親会・巡検・お弁当については事前に申込が必要です．申込は，会員と同伴者の計2名まで一括申込が可能です．なお，学会を通じての宿泊・交通手配の斡旋は行いません．宿泊や交通については各自で手配願います．

9. 各種申込とお支払いについて

（1）申込方法

1）参加登録システム（オンライン）による申込
（申込締切：8月19日（水）18:00）

学会HPから「名古屋大会ホームページ」の大会専用参加登録システムへアクセスし，画面表示に従って入力をして下さい．支払方法などの詳細は，ホームページをご覧下さい．

2）FAX・郵送による申込
（申込締切：8月11日（水）必着）

まずは学会事務局までお問い合わせ下さい．郵送用申込書等必要な書式をお送りします．申込書類をご準備の上，8月11日（水）必着で学会事務局までお送り下さい．お申込みの際は，必ず申込書のコピーを各自で保管して下さい．

申込締切後，確認書（ハガキ）を発送します（9月初旬発送予定）．大会開催10日前までには参加者の皆様のお手元に届くようお送り致します．

（注）締切時点で入金確認が取れない場合：請求金額は，「当日払い」の金額となり，未入金旨記載された確認書が送付されます．入金と確認書の発送が入れ違いの場合は，入金（振込）時の控え等を会場にお持ち下さい．ご協力をお願い致します．

（2）申込後の変更・取消

1）参加登録システム（オンライン）でお申込みの場合：締切までの間は，大会登録専用HPから予約の変更・取消が出来ます．締切後は直接学会事務局（東京）にFAX又はe-mailにてご連絡下さい．

2）FAX・郵送でお申込み場合：申込後に変更・取消が生じた場合は，学会事務局（東京）にFAXまたはe-mailにてご連絡下さい．その際申込受付時に案内される「受付番号」・「氏名」を必ず明記して下さい．

（3）取消に関わる取消料と返金について

	締切日（8/19）まで	大会3日前（9/6）まで	大会2日前（9/7）以降
参加登録費	0%	60%	100%
懇親会	0%	100%	100%
お弁当	0%	50%	100%
	締切日（8/19）まで	実施3日前まで	実施2日前以降
巡検（9/8実施コース）	0%	（9/5まで）50%	（9/6以降）100%
巡検（9/12実施コース）	0%	（9/9まで）50%	（9/10以降）100%

※申込項目により取消料が異なりますので，ご注意下さい．
※いずれの場合も返金がある場合は，振込手数料を差し引いた額をクレジットカード会社もしくは学会から返金します．返金までに2～3ヶ月要する場合もありますので，ご了承下さい．

10. 参加登録費

	事前申込	当日払い
正会員	7,500円	9,500円
院生割引会費適用正会員	4,500円	6,500円
学部学生割引会費適用正会員 名誉会員・50年会員 非会員学部学生・非会員招待者・同伴者	無料	無料
非会員（一般）	12,500円	15,000円
非会員（院生）	7,000円	9,500円

※今大会より冊子体の講演要旨集の作成は致しません．参加登録費の有料・無料に関わらず、要旨集（冊子）はありません．
※日本地質学会の会員資格は『正会員』のみであり，割引会費の申請をした方についてのみ，割引会費が適用されています．
※セッション共催団体会員の参加登録費は地質学会会員に準じます．

11. 講演要旨について（要旨集冊子体廃止，WEB閲覧）

本大会より講演要旨集の冊子体は作成いたしません．講演要旨（PDFファイル）は，WEB上で閲覧する方式に変更になります（全講演分一括ダウンロード可能）．講演要旨は，事前に閲覧，ダウンロードしていただけます．また，会期前は，事前参加登録者に限り閲覧可能．会期中よりアクセス制限なくどなたでも閲覧可能とする予定です．WEB上での閲覧，ダウンロードが難しい方には，有償の出力サービス等を予定しています．学会事務局までお問合せ下さい．

12. 巡検参加申込

申込締切：

オンライン：8月19日（水）18:00

FAX・郵送：8月11日（火）必着

総計8コースの巡検を計画しました（p.（20）参照）．

(1) 会員・非会員問わずお申込頂けます．
(2) 実施日程が異なる場合，複数の巡検コースへの申込を行うことができます．
(3) 申込人数が各巡検コースの最小催行人員に達しなかった場合，巡検を中止することがあります．
(4) 本学会ならびに名古屋大会実行委員会は巡検参加者に対し，巡検中に発生する病気，事故，傷害，死亡等に対する責任・補償を一切負いません．これらについては，巡検費用に含まれる保険（国内旅行傷害保険団体型）の範囲でのみまかなわれます．
(5) 集合・解散の場所，時刻等に変更することがあります．大会期間中は会場内の掲示板等で案内に注意して下さい．また，案内者から直接ご連絡することもあります．
(6) 中学生以下がアウトリーチ巡検に参加する場合は，必ず保護者同伴でお申し込み下さい．なお，バスや徒歩での移動に際して介助が必要な方への対応は準備しておりませんのでご了承ください．
(7) アウトリーチ巡検以外の案内書は昨年同様，地質学雑誌に掲載予定です．CD-ROMは作成しません．また，雑誌発行と同時にJ-STAGE上で公開します．巡検参加者には，各班の案内書のコピーを巡検当日に配布します．
(8) 会期後，大会報告記事（ニュース誌11月号を予定）において，参加者氏名を掲載させて頂きます．あらかじめご了承ください．
(9) 取消料は，巡検実施日によりコース毎に異なります．（p.（7）参照）．申込締切後の変更・取消は，直接学会事務局（東京）にFAX又はe-mailにてご連絡下さい．

13. 懇親会参加申込

日時：9月9日（水）18:00頃から2時間程度
会場：名古屋大学　東山キャンパス　南部生協１階Mei-dining

準備の都合上，前金制の予約参加とします．たくさんの方々，特に院生・学生などの若手会員のご参加をお待ちしております．余裕があれば当日参加も可能ですが，予定数に達し次第締切ります．当日会費は1,000円高くなります．

	会　費
正会員	5,000円
院生割引会費，学部学生割引会費適用正会員・名誉会員・50年会員，同伴者	2,500円

※非会員の会費は会員に準じます．
※締切後の参加取消の場合は会費の返却いたしません．ご了承下さい．p.（6）9項（3）参照．

14. お弁当予約販売・食堂等の営業について

9月9日（水）～11日（金）に昼食用お弁当の予約販売をいたします（１個700円，お茶付）．

また講演会場に近い「名古屋大学生協　南部食堂」が昼食時間帯に下記の通り営業予定です．

9日（水）～11日（金）　11：00～14：00

※大学周辺には飲食店が少ないためにお弁当予約もしくは学内施設のご利用をおすすめ致します．

会合のお申込

申込締切：6月24日（水）行事委員会扱い

会合開催をご希望の場合は，必要な申込項目をe-mailで行事委員会宛に申し込んで下さい．開催日時のご希望には沿えない場合があります．また，世話人には，集会内容を大会報告記事（ニュース誌11月号を予定）に投稿していただきます（800字以内，原稿締切は10月下旬を予定）

15．ランチョン開催の申込

開催予定：9月9日（水），10日（木），11日（金）（開催時間は日によって多少異なります）
申込項目：(1) 集会名称，(2) 集会内容（50 ～100字程度）(3) 世話人氏名・連絡先（メールアドレスと電話番号）(4) 予定人数 (5) その他ご希望等（希望日程，プロジェクターの使用希望など）

16．夜間小集会開催の申込

開催予定：9月10日（木），11日（金）18：00 ～19：30
申込項目：(1) 集会名称，(2) 集会内容（50 ～100字程度）(3) 世話人氏名・連絡先（メールアドレスと電話番号）(4) 予定人数 (5) その他ご希望等（希望日程，プロジェクターの使用希望など）

その他のご案内

17．企業等団体展示・書籍販売・大会HPバナー広告掲載の募集

申込締切：一次7月15日（水），最終8月11日（火） 大会運営委託企業扱い

企業等団体展示会，書籍・その他物品の販売ブース設置を大会会期中に予定しています．また，大会HPへのバナー広告掲載を募集致します．詳しくは大会ホームページまたは大会運営委託企業（株式会社　アカデミック・ブレインズ）までお問い合わせ下さい．

18．大会へお子様をお連れになる方へ

ご家族で学会に参加される会員で，大会期間中に保育施設のご利用を希望される方には，学会からは保育料金の一部を補助いたします．会場内には保育室を設けませんので，近隣施設をご紹介いたします．詳細は大会HPをご参照ください．

19．実行委員会組織

名古屋大学：大路樹生（委員長），道林克禎（事務局），竹内　誠，吉田英一，氏原　温，加藤丈典，林　誠司，纐纈佑衣
巡検案内書：栗原敏之（新潟大学）
大会運営委託；株式会社　アカデミック・ブレインズ（(担当：田中　宙）
TEL：06-6949-8137，FAX：06-6949-8138，
e-mail：gsj2020nagoya@academicbrains.jp

20．連絡先一覧

(1) 日本地質学会行事委員会・地学教育委員会・学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F
TEL：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

日本地質学会行事委員会（2020年4月現在）
委員長　岡田　誠
委　員　佐藤大介（地域地質部会）
納谷友規（層序部会）
松崎賢史（海洋地質部会）
野田　篤（堆積地質部会）
新井和乃（現行地質過程部会）
山口悠哉（石油石炭関係）
常盤哲也（構造地質部会）
上松佐知子（古生物部会）
上澤真平（火山部会）
遠藤俊祐（岩石部会）
野々垣　進（情報地質部会）
田村嘉之（環境地質部会）
山崎新太郎（応用地質部会）
田村糸子（地学教育委員会）
竹下欣宏（第四紀地質部会）
黒田潤一郎（環境変動史部会）
吉田英一（地質環境長期安定性研究委員会）
中村謙太郎（鉱物資源部会）

(2) 日本地質学会第127年学術大会（2020 名古屋）大会運営委託

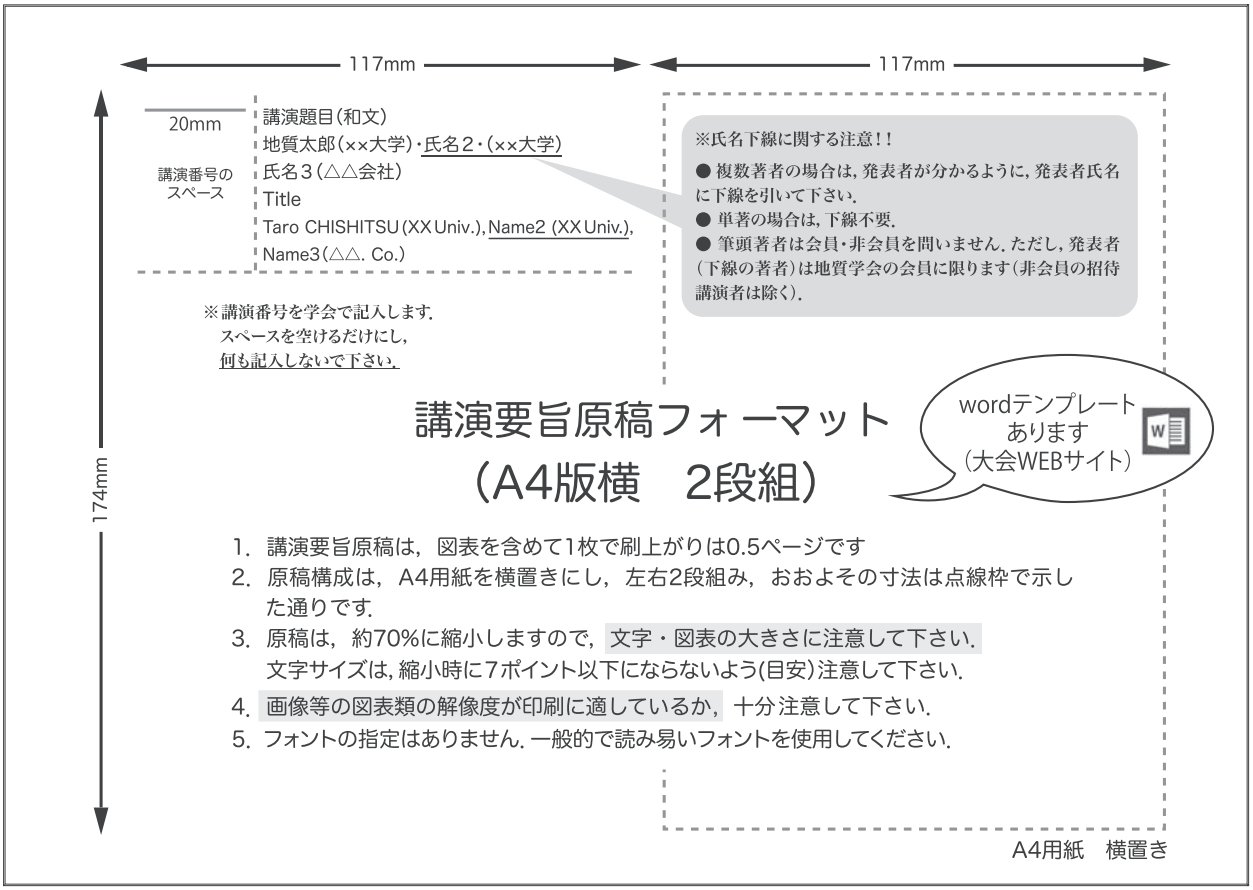
（株）アカデミック・ブレインズ（担当：田中　宙）
〒540-0033　大阪市中央区石町1-1-1天満橋千代田ビル2号館10階
Tel：06-6949-8137　Fax：06-6949-8138
e-mail：gsj2020nagoya@academicbrains.jp
営業時間　月～金曜10 :00～18:00 土日・祝日休み

21. 申込先と締切一覧

	オンライン（WEB）	FAX・郵送	担当/申込先	参照先
講演申込（演題登録）	7月1日（水）18時	6月24日（水）必着	行事委員会/ 講演申込システム	p.（4）
大会参加登録	8月19日（水）18時	8月11日（火）必着	学会事務局/ 参加申込システム	p.（6）
懇親会，弁当	8月19日（水）18時	8月11日（火）必着	学会事務局/ 参加申込システム	p.（7）
巡　検	8月19日（水）18時	8月11日（火）必着	学会事務局/ 参加申込システム	p.（7）

	締切		担当・申込先	参照先
生徒「地学研究」発表会	7月31日（金）	---	地学教育委員会	p.（2）
ランチョン・夜間小集会	6月24日（水）	---	行事委員会	p.（8）

	一次締切	最終締切	担当・申込先	参照先
企業展示への出展	7月15日（水）	8月11日（火）	アカデミック・ブレインズ	p.（8）
書籍・販売ブース	7月15日（水）	8月11日（火）	アカデミック・ブレインズ	p.（8）
大会HPバナー広告	7月15日（水）	8月11日（火）	アカデミック・ブレインズ	p.（8）



講演要旨オンライン投稿手順・チェックシート

講演要旨の投稿手順および基本的注意事項です．投稿していただく前に各自でご確認下さい．

1．Word等のソフトで講演要旨原稿を作成する

□「保証及び著作権譲渡同意書」第1項の「保証」内容は守られていますか？
□ 引用文献は要旨中に表示されていますか？
□ 要旨の体裁は守られていますか？(原稿フォーマット参照)

2．原稿をPDFファイルにする

□ フォントは「埋め込み」になっていますか？（できたファイルサイズが100KB未満の場合，フォントが埋め込まれなかった可能性があります）
□ ファイルサイズは5.0MB以下になっていますか？
□ 作成したファイルを自分でプリントアウトしてみましたか？（図表や写真に充分な解像度があるか，文字化けはないか確認して下さい）
□ PDFファイルを自分のPC上に，「.pdf」の拡張子をつけて保存しましたか？

3．講演申込システムからアカウント登録，講演申込＆要旨原稿を行う

□ まずは、アカウント（メールアドレス）登録をおこないましょう．
□ アカウント（メールアドレス）の本登録を行いましたか?（確認メールに表示されているURLをクリック）
□ 入力した情報（発表題目・発表者氏名等）は，講演要旨と一致していますか？
□ 申込完了画面が表示されましたか（受付番号が表示されましたか）？
□「演題登録受付のお知らせ」のメールが配信されましたか？

オススメ☞講演要旨の作成が完了していなくても，まずは講演申込の手続きを済ませておきましょう！

要旨のみ後で投稿することもできます(ダミーのPDFファイルをアップロードする)．講演申込には発表者情報など入力する情報が多いので締切間際にあわてると誤入力の原因になります．余裕を持ってあらかじめ講演申込を済ませておくことをオススメします．

シンポジウム・セッション一覧

※タイトル（和英），世話人氏名・所属（和英），概要を示します．＊印は代表世話人（連絡責任者）です．
※発表申込については，本誌p.（4）をご確認下さい．

シンポジウム：3件

S1．球状コンクリーションの科学（Spherical concretions on Earth and Mars -understanding the formation process and its future applications-）

吉田英一*（名古屋大：dora@num.nagoya-u.ac.jp）・長谷川精（高知大）・勝田長貴（岐阜大）
Convener: Hidekazu Yoshida*（Nagoya Univ.）・Hitoshi Hasegawa（Kochi Univ.）・Nagayoshi Katsuta（Gifu Univ.）

球状コンクリーションは堆積岩中で形成される球体～楕円体の岩塊であり，そのサイズは数センチから数メートルと様々である．主成分はその多くが炭酸カルシウムから構成されるが，鉄やシリカから成るものも発見されている．このうち，炭酸カルシウム（カルサイト）の球状コンクリーションの多くは，保存良好な化石などの生物の痕跡（化石）を内包している．近年，その成因の研究が進められ，カルサイトは内包される生物を起源とする炭素成分と堆積物中の間隙水に含まれる海水中のカルシウムイオンが急速に沈殿反応することで形成されること，このカルサイトの急速な沈殿・シーリング反応によって，内包される化石が長期にわたって保存良好に維持されることが明らかとなってきた．とくに，このシーリングプロセスは急速かつ長期的に安定な化学的・物理的性質を有するため，地下トンネルなどのコンクリート構造物修復や石油，CCS及びLPG貯留等大型地下空間に伴うボーリング孔の長期シーリングといった工学技術にも応用可能であり，その新素材開発が進められている．また，鉄コンクリーションに関しては，火星の堆積岩中からも発見され，火星の水の存在や古環境の理解のみならず，地球外生命探査の観点からも注目されてきている．本シンポジウムでは，それらの研究成果や最新の情報，そして将来的な応用の可能性について紹介する．

招待講演予定者：Prof. Marjorie Chan（ユタ大学）・丸山一平（名古屋大）・城野信一（名古屋大）・浅原良浩（名古屋大）・河原弘和（JOGMEC）・西本昌司（名古屋市科学館）・村宮悠介（深田地質研究所）ほか

S2．オマーンオフィオライト掘削プロジェクトからみえてきた新しい海洋プレート像（A new view on oceanic plate after Oman Ophiolite Drilling Project）

道林克禎*（名古屋大：michibayashi@nagoya-u.jp）・高澤栄一（新潟大）・森下知晃（金沢大）
Convener: Katsuyoshi Michibayashi*（Nagoya Univ.）・Eiichi Takazawa（Niigata Univ.）・Tomoaki Morishita（Kanazawa Univ.）

海洋プレートは，中央海嶺で形成されてから水平移動して海溝で沈み込むサイクルを繰り返し，地球物質大循環の媒体としての役割を果たしている．さらに，その物質科学的特徴は沈み込み帯における火山・地震活動にも多大なる影響を与えている．しかし，海洋プレートの形成・進化が十分に解明されているわけではない．一方，アラビア半島東端のオマーン王国には，約１億年前の古海洋であるテチス海が閉じて消滅する際に，アラビア半島に衝上して付加した海洋プレートの断片が約500km幅80kmの山脈として露出している．この岩塊はオフィオライトと呼ばれ，古くから海洋プレートの模式地として知られており，海洋プレートの岩石層序の形成過程とその進化に重要な知見を与えると考えれてきた．この“オマーンオフィオライト”を複数地点で掘削するオマーン掘削プロジェクトが，国際陸上科学掘削計画のもとで2016年から2018年まで実施され，海洋地殻－マントル境界物質を含めて８箇所から総延長3,200mの岩石掘削試料が得られた．さらに国際深海科学掘削計画と海洋研究開発機構の連携として超深部探査船ちきゅうの船上ラボにおいて国内外の研究者による岩石掘削試料の詳細な記載・解析が実施された．本シンポジウムでは，これまで得られた成果を紹介してもらいながら海洋プレート研究の現状と今後の展望について議論したい．

招待講演予定者：秋澤紀克（東京大学）・阿部なつ江（海洋研究開発機構）・市山祐司（千葉大）・海野進（金沢大）・岡崎啓史（海洋研究開発機構）・片山郁夫（広島大）・仙田量子（九州大）・畠山航平（広島大）・吉田一貴（東北大）

S3．大学統合期における地学教育の継続を模索する（Exploring continuation of earth science education during university consolidation）

天野一男※（東京大・空間情報科学研究センター：ikap@cap.ocn.ne.jp）・佐々木和彦（応用地質株）
Conveners: Kazuo Amano*（Center for Spatial Information Science, The University of Tokyo）・Kazuhiko Sasaki（Oyo Corporation）

2011年の東北地方太平洋沖地震およびそれに伴った福島第一原子力発電所事故をはじめ，2014年の御嶽山噴火，2018年の北海道胆振東部地震，2019年台風19号関連の洪水・地盤災害など膨大な人的・経済的被害をもたらす自然災害が頻発している．われわれがプレートの沈み込み帯である日本列島に暮らしている限り，このような自然災害からは逃れることができない．多くの自然災害は地形や地質に関連して発生している．被害を最小限にし，安全な生活を維持するためには，足下の自然の成り立ちを理解し自然と調和して生活することが不可欠である．社会の自然災害に対するリテラシーを高めるために，大学の地学教育の役割は極めて重要である．一方，2003年の国立大学法人化からはじまった大学改革が，私立大学・公立大学をも含めて進められてきた．学科の整理統廃合は当初よりなされていたが，現在それは大学の統合にまで至っており，新しい状況が生じている．基本的に地学は基礎科学であるが，応用科学的側面も有している．地学系大学は，研究者を養成する以上に自然災害に対応できる地質・土木系専門家や資源問題解決に役立つ有能な人材を供給してきた．大学統合の嵐の中で，大学が地学教育を継続し社会に貢献する方策について，JABEE（日本技術者教育認定機構）の活動を例にして，大学の変動期における地学教育の可能性について議論したい．なお，本シンポジウムは地質技術者教育委員会が企画したものである．

招待講演予定者：坂口有人（山口大）・竹内真司（日本大）・三田清文（日本技術者教育認定機構）・井田貴史（JABEEプログラム修了生・応用地質株）ほか

トピックセッション：7件

T1．広域観測・微視的実験連携による沈み込み帯地震研究の新展開（New perspectives of subduction zone earthquake dynamics through experiments across-scales）［共催：日本地震学会］

世話人：木下正高*（東京大；masa@eri.u-tokyo.ac.jp）・河野義生（愛媛大）・荒木英一郎（JAMSTEC）・北島弘子（Texas A&M Univ.）

Convener: Masataka Kinoshita* (Univ. of Tokyo), Yoshio Kono (Ehime Univ.), Eiichiro Araki (JAMSTEC), Hiroko Kitajima (Texas A&M Univ.)

趣旨・概要：沈み込み帯のプレート境界で発生する巨大地震は，現象としての理解は相当に進展した．一方，地震の開始・成長過程や原動力など，時空的に10桁も異なる現象が相互作用する地震のメカニズムを包括的に解明するためには，地震学のみでは限界がある．実証科学としての地震予測を可能にするステップとして，ネットワーク観測網による地震発生場の広域観測，超深度掘削による地震断層・プレート物質の採取・現場計測，そして量子ビーム高圧実験による破壊開始過程の再現・観察，が協働し，プレートレオロジーから素過程にまたがる現象の動的描像に挑戦する．日本学術会議の「大型研究計画マスタープラン2020」に提出した計画をベースに学際的に議論を深めるが，海陸ネットワーク，地震発生帯などの掘削，破壊実験，量子ビーム実験，破壊過程理論など，地震発生やプレートレオロジーに関わる観測・理論からの発表を歓迎する．

T2．海底地盤変動学のススメ（Submarine Mass Movements and Their Consequences）［共催：国際地質学連合ジオハザード・タスクグループ］

世話人：川村喜一郎（山口大；kiichiro@yamaguchi-u.ac.jp）・北村有迅（鹿児島大）・成瀬　元（京都大）・山崎秀策（土木研究所）

Convener: Kiichiro Kawamura (Yamaguchi Univ.), Yujin Kitamura (Kagoshima Univ.), Hajime Naruse (Kyoto Univ.), Shusaku Yamazaki (Public Works Research Inst.)

趣旨・概要：大規模な海底地すべりは，きわめて大きな津波を引き起こすことが指摘されているが，その実体は良くわかっていない．たとえ大規模な地すべりでなくとも，洋上風力発電所，原子力発電所などの沿岸構造物や海底ケーブルなどの海底敷設物へ被害や石油などの海底資源開発への影響が懸念されている．日本列島は，巨大地震が頻発するプレート収束帯であり，海底地すべりのリスクは避けて通れない．また，台風も来襲することから，沿岸域での海底地すべりの発生要因は，地震だけでなく，気象も発生要因として容易に想定される．変動帯でなおかつ温暖帯での海底地すべり科学の先鞭をつけ，世界をリードしていくために本シンポジウムを企画した．幅広い分野の関係者，そして多くの若者にも参集してもらいたい．

招待講演予定者：馬場俊孝（徳島大：非会員）・松山昌史（電中研：非会員）

T3．スロー地震に関する地質学的・実験的・地震学的研究の連携と進展（Collaboration and advance of geological, experimental, and seismological research on slow earthquakes）

世話人：氏家恒太郎*（筑波大；kujiie@geol.tsukuba.ac.jp）・ウォリス　サイモン（東京大）・平内健一（静岡大）・岡崎啓史（JAMSTEC）

Convener: Kohtaro Ujiie* (Univ. of Tsukuba), Simon Wallis (Univ. of Tokyo), Ken-ichi Hirauchi (Shizuoka Univ.), Keishi Okazaki (JAMSTEC)

趣旨・概要：沈み込み帯における地震・測地観測により，断層がゆっくりすべることで発生するスロー地震が次々と報告され，巨大地震との関連が注目されている．近年，スロー地震を対象とした地質学的・実験的研究が進展し，スロー地震を引き起こす物質，スロー地震を特徴づける変形様式・変形機構・摩擦特性・水理特性が詳しく検討されている．本トピックセッションは，南海トラフと日本海溝における地震・測地観測から明らかになったスロー地震像と地質学的・実験的研究から得られたスロー地震像を共有し，互いにフィードバックさせながら議論することで，スロー地震の発生過程と発生環境に関する理解を深めることを目的とする．また，スロー地震研究の今後の方策を議論し，新たな研究の創造へのきっかけとなる場としたい．

招待講演予定者：小原一成（東京大地震研究所：非会員）・西川友章（京都大防災研：非会員）

T4．二次改変された過去の弧-海溝系の復元：日本およびその他の例（Reconstructiong modified ancient arc-trench systems: examples of Japan etc.）

世話人：磯崎行雄*（東京大；isozaki@ea.c.u-tokyo.ac.jp）・青木一勝（岡山理科大）・澤木佑介（東京大）

Convener：Yukio Isozak* (Univ. Tokyo), Kazumasa Aoki (Okayama Univ. Sci.), Yusuke Sawak (Univ. Tokyo)

趣旨・概要：長期のプレート沈み込みで形成された造山帯は，特徴的な地質体の組み合わせと配列を持つ．しかし，継続するテクトニクスによって古い要素には新規情報が重複刻印され，多くの場合には地質体自体またそれらの配列は順次改変・消失されてゆく．特に相対的に密度の低い大陸地殻は，その形成後は基本的に不滅とみなされてきたが，近年の研究で過去の大陸地殻が構造侵食過程によって大量に消失してきたことが確認された．伝統的に地質学は野外で直接観察可能な地質体を研究対象としてきたため，過去の地質構造や古地理を復元する際に既に消失した地質体を想定する場合にその規模の見積もりに大きな思考上の限界があった．日本列島のように５億年に及ぶ長期の歴史を持つ造山帯の過去の成長過程や古地理の復元もその例に漏れず，従来の古地理図には多くの改良が必要である．最近の砕屑性ジルコン年代学という研究手法は，この障害を乗り越える上で，極めて有効なアプローチの一つである．また近年，古期大陸地塊の分布や特徴がより詳しく判明したことから，個々のプレート収束境界の存在継続期間などがより正確に絞られてきた．本セッションでは，これらの新視点から，過去の造山帯の内部構造や古地理をどこまで正確に復元可能であるのかを探る．対象地域や年代に制限は設けないが，基本的に日本列島およびその周辺地域である東アジアを中心とする．

招待講演予定者：沢田　輝（JAMSTEC：会員）・今岡照喜(山口大：会員)

T5．文化地質学（Culture geology）［共催：文化地質研究会］

世話人：大友幸子*（山形大：yukiko@e.yamagata-u.ac.jp）・鈴木寿志（大谷大）・川村教一（兵庫県立大・院）・梅田真樹（大谷大）

Convener：Yukiko Ohtomo (Yamagata Univ.), Hisashi Suzuki, (Otani Univ.), Norihito Kawamura (Graduate School, Univ. of Hyogo), Masaki Umeda (Otani Univ.)

趣旨・概要：文化地質学は人類の文化・文明が，地質とどのように関わってきたか，そして現在もどのように関わっているかを研究する学際的学問分野である．これまでのトピックセッションでは，以下のような研究例が示された．(1) 地質を石材など資源として活用した事例研究，(2) 考古遺物の成分分析を行った研究，(3) 地域の固有文化との関わりを論じた研究，(4) 博物館などでの普及・教育実践についての研究，(5) 地質に関わる文学の研究，(6) 山岳霊場など宗教と地質の関わりを論じた研究．招待講演との関連から，今年の大会ではとくに (2) の考古遺跡の記載岩石学，鉱物学について論じた研究発表を歓迎したい．もちろん研究発表の申込みはこれに限定せず，文化・文明と地質との関わり，人・社会の営みと地質との関わり，観光資源としての地質など，地質と人々との関わりについて論じたすべての研究発表を歓迎する．
招待講演予定者：三澤裕之（秀明大学：非会員）・藤本幸雄（秋田地学教育学会：会員）

T6. 災害多発社会における学術資料・標本散逸問題―大学・博物館は何をすべきか―（Future of Academic collections in universities and Museums, Japan）［後援（予定）：日本学術会議］
世話人：堀　利栄*（愛媛大：shori@sci.ehime-u.ac.jp）・小宮　剛（東京大）
Convener: Rie S. Hori(Ehime Univ.), Tsuyoshi Komiya (Univ. Tokyo)
趣旨・概要：昨年の2019年山口大会におけるトピックセッションの後継として提案する．日本で近代科学が産声をあげて約150年間，日本の研究者は国内のみならず海外にも進出し，多くの貴重な試料を収集してきた．しかし，近年の日本社会の急速な高齢化，大量退職および高等教育・研究機関における予算の縮小により，自然科学系の大学教員・研究者数が急速に減少し，管理者不在となった貴重な学術研究標本・資料が散逸する危機にさらされている．また，ABSやコロナウイルス禍に見られるように時には標本だけでなく研究者の移動制限さえかかるような情勢になってきており，かつての様に自由に世界各地で試料を採取し標本を国内に持ち込める・持ち出せる時代ではなくなりつつある．加えて頻発する自然災害によって貴重な学術標本が被災するケースも増え，脆弱な地方の大学や博物館で収容されている学術標本保管のあり方も問われている．特に，大学における地球科学系の岩石，鉱物，タイプ標本を除く化石および学術資料の維持・管理は，研究者個人の裁量に任されていた事もあり，現状の把握さえままならず，その多くが廃棄されつつある．今こそ，学界コミュニティーでこのような問題について議論し地質学の未来のために行動すべき時にきている．本セッションでは，昨年度からさらに踏み込んで，大学標本の保管の現状や大学博物館のあり方，および国立・地方博物館との連携など，標本管理・利用ネットワークや利用しやすいデータベース化等に焦点をあて，次世代に残し活用されるべき学術標本・資料のあり方を，関係する研究者の方々のご講演を通じて皆様と議論していきたい．
招待講演予定者：大路樹生（名古屋大博：会員）

T7. 地球年代学が拓く高精度火山噴火史・発達史（Advance in geochronology applied for high resolution eruption and evolution history of volcanoes）
世話人：上澤真平*（電中研；uesawa@criepi.denken.or.jp）・及川輝樹（産総研）・山崎誠子（産総研）・長谷川　健（茨城大）・古川邦之（愛知大）
Convener: Shimpei Uesawa* (CRIEPI), Teruki Oikawa (AIST), Seiko Yamasaki (AIST), Takeshi Hasegawa (Ibaraki Univ.), Kuniyuki Furukawa (Aichi Univ.)
趣旨・概要：火山噴出物の年代を正確に求めるのは，火山活動史の定量的な理解につながるため，火山学的に重要なばかりか，噴火の頻度などを通して，防災対応にも役立つ情報を提供する．さらに，テフラなどの噴出物の年代が正確に求まれば，千葉セクションの白尾火山灰を例にあげるまでもなく，それが挟まる地層の年代もおのずと明らかになる．このように火山噴出物の年代測定により，地質学的に広く有益な情報を得ることができるが，従来は手法の適用範囲の制約により，測定が難しいものや時代，および精度などに問題があった．しかし，近年の分析装置の改良や研究の進展により，それらの問題が解決しつつある．そこで，これらの研究を最前線で行っている研究者と火山噴出物を扱っている研究者が一堂に会して，年代測定の理解および課題と展望を共有・議論し，現在の到達点を整理したい．また，年代測定法に関連した事例研究や，年代学的手法を応用したテフラ層序，噴火史，マグマ変遷，地磁気永年変化研究などについての発表も大いに募り，活発な議論を期待する．
招待講演予定者：伊藤久敏（電中研：会員）・望月伸竜（熊本大：会員）

レギュラーセッション：24件

R1. 深成岩・火山岩とマグマプロセス（Plutonic rocks, volcanic rocks and magmatic processes ）［火山部会・岩石部会］
世話人：上澤真平*（電中研；uesawa@criepi.denken.or.jp）・道林克禎（名古屋大）・長谷川　健（茨城大）
Convener: Shimpei Uesawa* (CRIEPI), Katsuyoshi Michibayashi (Nagoya Univ.), Takeshi Hasegawa (Ibaraki Univ.)
深成岩および火山岩を対象に，マグマプロセスにアプローチした研究発表を広く募集する．発生から定置・固結に至るまでのマグマの物理・化学的挙動や，テクトニクスとの相互作用について，野外地質学・岩石学・鉱物学・火山学・地球化学・年代学など様々な視点からの活発な議論を期待する．
招待講演予定者：今山武志（岡山理科大：会員）

R2. 岩石・鉱物・鉱床学一般（Petrology, mineralogy and economic geology）［岩石部会］
世話人：桑谷　立*（JAMSTEC；kuwatani@jamstec.go.jp）・吉田健太（JAMSTEC）・沢田輝（JAMSTEC）
Convener: Tatsu Kuwatani* (JAMSTEC), Kenta Yoshida (JAMSTEC), Hikaru Sawada (JAMSTEC)
岩石学，鉱物学，鉱床学，地球化学などの分野をはじめとして，地球・惑星物質科学全般にわたる岩石及び鉱物に関する研究発表を広く募集する．地球構成物質について多様な研究成果の発表の場となることを期待する．データ科学など新たなアプローチによる研究も歓迎する
招待講演予定者：なし

R3. 噴火・火山発達史と噴出物（Eruption, volcanic evolution and volcanic products）［火山部会］
世話人：長谷川　健*（茨城大；takeshi.hasegawa.paul@vc.ibaraki.ac.jp）・上澤真平（電中研）
Convener: Takeshi Hasegawa* (Ibaraki Univ.), Shimpei Uesawa (CRIEPI)
火山地質ならびに火山現象のモデル化に関し，マグマや熱水流体の上昇過程，噴火様式，噴火経緯，噴出物の移動・運搬・堆積，各火山あるいは火山地域の発達史，火山活動とテクトニクス・化学組成をはじめとする，幅広い視点からの議論を期待する．昨今，社会的要請が強まっている噴火の推移予測や防災・減災対策に資する研究事例も歓迎する．
招待講演予定者：伴　雅雄 (山形大：会員)

R4. 変成岩とテクトニクス（Metamorphic rocks and tectonics）［岩石部会］
世話人：吉田健太*（JAMSTEC；yoshida_ken@jamstec.go.jp）・田口知樹（早稲田大）・足立達朗（九州大）
Convener: Kenta Yoshida* (JAMSTEC), Tomoki Taguchi (Waseda Univ.), Tatsuro Adachi (Kyushu Univ.)
国内および世界各地の変成岩を主な対象に，記載的事項から実験的・理論的考察を含め，またマイクロスケールから大規模テクトニクスまで，様々な地球科学的手法・規模の視点に立った斬新な話題提供と活発な議論を期待する．
招待講演予定者：なし

R5. 地域地質・地域層序・年代層序（Regional geology and stratigraphy, chronostratigraphy）［地域地質部会・層序部会］
世話人：佐藤大介*（産総研；d-satou@aist.go.jp）・納谷友規（産総研）・松原典孝（兵庫県立大）
Convener: Daisuke Sato* (AIST), Tomonori Naya (AIST), Noritaka Matsubara (Univ. Hyogo)
国内外を問わず，地域の地質や層序，および年代層序に関連した発表を広く募集する．地質図，年代，地球化学，分析，リモセン，活構造，地質調査法等の様々な内容の発表を歓迎し，地域を軸にした討論を期待する．なお，新生代に関する研究はR7「新生代の地質事変記録」でも発表を受け付けている
招待講演予定者：なし

R6. ジオパーク（Geopark）［地域地質部会・ジオパーク支援委員会］
世話人：天野一男*（東京大；ikap@cap.ocn.ne.jp）・高木秀雄（早稲田大）
Convener: Kazuo Amano* (Univ. Tokyo), Hideo Takagi (Waseda Univ.)
近年，地質・地形にかかわる自然災害が多発している．社会の自然災害に対するリテラシーを高めことのできる有力な場所の一つがジオパークである．今回はジオパークと自然災害に関わる講演を中心に募集したい．もちろん，このテーマに直接関連しない講演も歓迎する．
招待講演予定者：なし

R7. 新生代の地質事変記録（Cenozoic geological records of Japan）［地域地質部会・層序部会］
世話人：細井　淳*（産総研；j.hosoi@aist.go.jp）・辻野　匠（産総研）・星　博幸（愛知教育大）・羽地俊樹（産総研）
Convener: Jun Hosoi* (AIST), Taqumi Tuzino (AIST), Hiroyuki Hoshi(Aichi Univ. Ed.), Toshiki Haji (AIST)
新生界に関する研究発表を広く募集する．話題は，地域的なものからグローバルなものまで問わない．また研究分野も問わず，地域地質，層序，地質構造，古生物，岩石，年代など，様々な発表を歓迎する．幅広い視点から，日本列島における新生代の地質や構造発達史，環境変動などを議論できる場にしたい．
招待講演予定者：なし

R8. 海洋地質（Marine geology）［海洋地質部会］
世話人：小原泰彦*（海上保安庁；ohara@jodc.go.jp）・板木拓也（産総研）・松崎賢史（東大大気海洋研）
Convener: Yasuhiko Ohara* (JCG), Takuya Itaki (AIST), Kenji Matsuzaki (AORI, Univ. Tokyo)
海洋地質に関連する分野（海域の地質・テクトニクス・変動地形学・海域資源・堆積学・海洋学・古環境学・陸域地質での海洋環境変遷研究など）の研究発表を募集する．調査速報・海底地形地質・画像データなどのポスター発表も歓迎する
招待講演予定者：沖野郷子（東京大：非会員）・谷　健一郎（国立科学博：会員）

R9. 堆積（Sedimentology）［堆積地質部会・現行地質過程部会］【共催：日本堆積学会・石油技術協会探鉱技術委員会・日本有機地球化学会】
松本　弾*（産総研；dan-matsumoto@aist.go.jp）・太田　亨（早稲田大）・新井和乃（高知大）
Convener: Dan Matsumoto* (AIST), Tohru Ohta (Waseda Univ.), Kazuno Arai (Kochi Univ.)
堆積物や堆積岩に関連した侵食・運搬・堆積・続成作用についての幅広い分野の研究を募集する．フィールド調査や露頭観察，野外での観測，アナログ・数値実験，理論解析，試料の各種分析・測定等を通じて，粒子の形態や組成，運搬・堆積過程における粒子の挙動，ダイナミックな地層形成プロセス，古環境復元，堆積物の供給源，堆積盆の形成，地質体の発達史などの様々な研究について議論する．なお，本セッションは昨年度まで実施されてきた「堆積物（岩）の起源・組織・組成」と「堆積過程・堆積環境・堆積地質」の2つのセッションを統合したものである．
招待講演予定者：田村 亨（産総研：会員）

R10. 炭酸塩岩の起源と地球環境（Origin of carbonate rocks and related global environments）［堆積地質部会］【共催：日本堆積学会・石油技術協会探鉱技術委員会・日本有機地球化学会】
世話人：足立奈津子*（大阪市大；adachi@sci.osaka-cu.ac.jp）・白石史人（広島大）・山田　努（東北大）
Convener: Natsuko Adachi* (Osaka City Univ.), Fumito Shiraishi (Hiroshima Univ.) Tsutomu Yamada (Tohoku Univ.)
炭酸塩岩・炭酸塩堆積物の堆積作用，組織，構造，層序，岩相，生物相，地球化学，続成作用，ドロマイト化作用など，炭酸塩に関わる広範な研究発表を募集する．また，現世炭酸塩の堆積作用・発達様式，地球化学，生物・生態学的な視点からの研究発表も歓迎する．
招待講演予定者：小宮　剛（東京大：会員）

R11. 石油・石炭地質学と有機地球化学（Geology and geochemistry of petroleum and coal）［石油石炭関係・堆積地質部会］【共催：石油技術協会探鉱技術委員会・日本有機地球化学会・日本堆積学会】
世話人：千代延俊*（秋田大；chiyo@gipc.akita-u.ac.jp）・山

口悠哉（石油資源開発）・三瓶良和（島根大）
Convener: Shun Chiyonobu* (Akita Univ.), Takashi Shimazu (JAPEX), Yoshikazu Sampei (Shimane Univ.)
国内外の石油・石炭地質および有機地球化学に関する講演を集め，石油・天然ガス・石炭鉱床の成因・産状・探査手法など，特にトラップ構造，堆積盆，堆積環境，貯留岩，根源岩，石油システム，資源量，炭化度などについて討論する．
招待講演予定者：早稲田 周（石油資源開発：非会員（有機地球化学会会員））

R12. 岩石・鉱物の変形と反応（Deformation and reactions of rocks and minerals）［構造地質部会・岩石部会］
世話人：大橋聖和*（山口大；oohashik@yamaguchi-u.ac.jp）・岡本 敦（東北大）・岡崎啓史（JAMSTEC）・向吉秀樹（島根大）
Convener: Kiyokazu Oohashi* (Yamaguchi Univ.), Atsushi Okamoto (Tohoku Univ.), Keishi Okazaki (JAMSTEC), Hideki Mukoyoshi (Shimane Univ.)
岩石・鉱物の変形（破壊，摩擦，流動現象）と反応（物質移動，相変化）およびその相互作用を，観察・分析・実験を通じて物理・化学的な側面から包括的に理解し，地球表層から内部における地質現象の解明を目指す．地質学，岩石学，鉱物学，地球化学など様々な視点・アプローチによる成果をもとに議論する
招待講演予定者：西山忠男（熊本大：会員）・纐纈佑衣（名古屋大：会員）

R13. 沈み込み帯・陸上付加体（Subduction zones and on-land accretionary complexe）［構造地質部会・海洋地質部会］
世話人：橋本善孝*（高知大；hassy@kochi-u.ac.jp）・坂口有人（山口大）・中村恭之（JAMSTEC）・山本由弦（JAMSTEC）
Convener: Yoshitaka Hashimoto* (Kochi Univ.), Arito Sakaguchi (Yamaguchi Univ.), Yasuyuki Nakamura (JAMSTEC), Yuzuru Yamamoto (JAMSTEC)
沈み込み帯・陸上付加体に関するあらゆる分野からの研究を歓迎する．野外調査，微細構造観察，分析，実験，理論，モデリングのみならず海洋における反射法地震探査，地球物理観測，地球化学分析，微生物活動など多様なアプローチに基づいた活発な議論を展開したい．次世代の沈み込み帯・陸上付加体研究者を育てるべく，学生による研究発表も大いに歓迎する．
招待講演予定者：大坪　誠（産総研：会員）・仲田理恵（東京大地震研：非会員）

R14. テクトニクス（Tectonics）［構造地質部会］
世話人：山口飛鳥*（東京大学；asuka@aori.u-tokyo.ac.jp）・末岡 茂（JAEA）・宮川歩夢（産総研）
Convener: Asuka Yamaguchi* (Univ. Tokyo), Shigeru Sueoka (JAEA), Ayumu Miyakawa (AIST)
陸上から海洋における野外調査や各種観測の他，実験や理論などに基づき，日本や世界各地に発達するあらゆる地質体の構造，成因，形成過程や発達史に関する講演を募集する．また，現在進行している地殻変形や活構造に関する研究成果も歓迎する．
招待講演予定者：中村佳博（産総研：会員）・志村侑亮（名古屋大：会員）

R15. 古生物（Paleontology）［古生物部会］
世話人：生形貴男（京都大）・太田泰弘（北九州博）・上松佐知子*（筑波大；agematsu@geol.tsukuba.ac.jp）
Convener: Takao Ubukata (Kyoto Univ.), Yasuhiro Ota (Kitakyushu Museum), Sachiko Agematsu* (Univ. of Tsukuba)
古生物の生物学的研究，化石試料を利用した地球科学的研究，古生物学の方法論に関する研究など，古生物に関連した幅広い内容の研究について発表・討論を行う．
招待講演予定者：磯崎行雄（東京大：会員）

R16. ジュラ系（The Jurassic +）［古生物部会］
世話人：松岡　篤*（新潟大；amatsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp）・近藤康生（高知大）・小松俊文（熊本大）・中田健太郎（福井県恐竜博）
Convener: Atsushi Matsuoka* (Niigata Univ.), Yasuo Kondo (Kochi Univ.), Toshifumi Komatsu (Kumamoto Univ.), Kentaro Nakada (Fukui Pref. Dinosaur Mus.)
2020年の「ジュラ系＋」は，2019年に引き続き，ジュラ系・白亜系境界（JKB）を主テーマとして設定する．とくに非海成層の分布が広いアジアにおけるJKBについて，各方面からのデータを持ち寄り，多角的に検討したい．JKBは投票直前という状況にあり，大詰めを迎えつつある．その一方で，決定は慎重にという意見も根強い．JKBについての最新情報を，「ジュラ系＋」のセッションに反映させたいと考えている．なお，アジアの白亜系を扱うIGCP679（代表：Li Gang教授）がUNESCO-IGCP評議会において採択され，2019年より活動を開始している．「ジュラ系＋」では，このIGCP679とも密接に連携を図っていく．
招待講演予定者：なし

R17. 情報地質とその利活用（Geoinformatics and its application）［情報地質部会・地域地質部会］
世話人：野々垣　進*（産総研；s-nonogaki@aist.go.jp）・斎藤　眞（産総研）
Convener: Susumu Nonogaki* (AIST), Makoto Saito (AIST)
地質情報の数理解析・統計解析・画像処理・機械学習・地理空間情報との統合をはじめとして，地質情報の電子管理・データベース構築，地質情報の３次元モデルの構築・可視化，SNSを含む地質情報のWeb発信・共有など，地質情報の情報処理に関する全ての研究成果（理論・技術・システム開発・実践事例・応用事例など）の発表を対象とする．また，これらの成果から得られた地質情報の利活用事例，利活用における問題点，比較検討・動向調査などの研究発表も対象とする．
招待講演予定者：なし

R18. 環境地質（Environmental geology）［環境地質部会］
世話人：風岡　修（千葉環境研）・田村嘉之*（千葉県環境財団；tamura@ckz.jp）・三田村宗樹（大阪市大）・難波謙二（福島大）
Convener: Osamu Kazaoka (Res. Inst. Environ. Geol., Chiba), Yoshiyuki Tamura* (Chiba Pref. Environ. Foundation), Muneki Mitamura (Osaka City Univ.), Kenji Nanba (Fukushima Univ.)
地質汚染，医療地質，地盤沈下，湧水，水資源，湖沼・河川，都市環境問題，法地質学，環境教育，地震動，液状化・流動化，地震災害，岩盤崩落など，環境地質に関係する全ての研究の発表・討論を行う．
招待講演予定者：なし

R19. 応用地質学一般およびノンテクトニック構造（Engineering geology and non-tectonic structures）［応用地質部会］

世話人：西山賢一（徳島大）・山崎新太郎*（京大防災研；yamasaki.shintaro.3m@kyoto-u.ac.jp）

Convener: Ken-ichi Nishiyama (Tokushima Univ.), Shintaro Yamasaki* (DPRI, Kyoto Univ.)

応用地質学一般では，種々の地質ハザードの実態，調査，解析，災害予測，ハザードマップの事例・構築方法，土木構造物の設計・施工・維持管理に関する調査，解析など，応用地質学的視点に立った幅広い研究を対象とする．また，ノンテクトニック構造では，ランドスライドや地震による一過性の構造，重力性の構造等の記載，テクトニック構造との区別や比較・応用等の研究を対象にして発表・議論する．

招待講演予定者：なし

R20. 地学教育・地学史（Geoscience Education/History of Geoscience）［地学教育委員会］

世話人：矢島道子*（日本大；pxi02070@nifty.ne.jp）・三次徳二（大分大）

Convener: Michiko Yajima* (Nihon Univ.), Tokuji Mitsugi (Oita Univ.)

地学教育，地学史に関わる研究発表を広く募集する．新学習指導要領についての教育現場からの問題提起や，実践報告に加え，大学や博物館，研究所等が行うアウトリーチに関わる実践報告についても歓迎する．また地学史からの問題提起，貴重な史的財産の開示を歓迎する．

招待講演予定者：なし

R21. 第四紀地質（Quaternary geology）［第四紀地質部会］

世話人：三田村宗樹*（大阪市大；mitamura@sci.osaka-cu.ac.jp）・長橋良隆（福島大）・竹下欣宏（信州大）

Convener: Muneki Mitamura* (Osaka City Univ.), Yoshitaka Nagahashi (Fukushima Univ.), Yoshihiro Takeshita (Shinshu Univ.)

第四紀地質に関する全ての分野（環境変動・気候変動・湖沼堆積物・地域層序など）からの発表を含む．また，新しい調査や研究，方法の開発や調査速報なども歓迎する．

招待講演予定者：なし

R22. 地球史（History of the Earth）［環境変動史部会］

世話人：清川昌一*（九州大；kiyokawa@geo.kyushu-u.ac.jp）・小宮　剛（東京大）・山口耕生（東邦大）・尾上哲治（九州大）・黒田潤一郎（東京大）

Convener: Shoichi Kiyokawa* (Kyushu Univ.), Tsuyoshi Komiya (Univ. Tokyo), Kosei Yamaguchi (Toho Univ.), Tetsuji Onoue (Kyushu Univ.), Junichiro Kuroda (Univ. Tokyo)

地球史を通して，大気や海洋，それに生命圏は様々な時間スケールで大きな変化を遂げてきた．それは，火山活動などの地球内部の活動や，太陽活動や公転軌道要素，隕石衝突など地球外要因によっても駆動されている．地球史における大気・海洋・生命圏の変動は，地層や化石に記録される．これらの変動を，多岐にわたる科学的手法により紐解くことは，地質学の大きな醍醐味の一つといえよう．本セッションは，特定の時代や特定の科学的手法にとらわれず，地球史上に残される環境変動や地殻変動の謎に迫る研究を広く募集し，インタラクティブな議論を展開する場にしたい．

招待講演予定者：杉谷健一郎（名古屋大：会員）・長谷川精（高知大：会員）

R23. 原子力と地質科学（Nuclear energy and geological sciences）［地質環境の長期安定性研究委員会］【共催：日本原子力学会バックエンド部会】

世話人：吉田英一*（名古屋大；dora@num.nagoya-u.ac.jp）・安江健一（富山大）・竹内真司（日本大）・梅田浩司（弘前大）

Convener: Hidekazu Yoshida* (Nagoya Univ.), Ken-ichi Yasue(Univ.Toyama), Shinji Takeuchi(Nihon Univ.), Koji Umeda (Hirosaki Univ.)

原子力は，ウラン資源探査，活断層等を考慮した耐震安全性評価，廃棄物の地層処分，放射性物質の環境動態等の多くの地質科学的課題を有している．本セッション「原子力と地質科学（Nuclear Energy and Geological Sciences）」は，このような日本の原子力に関わる地質科学的課題について，地球科学的知見の議論及び関連する学会や研究者間の意見交換を行うことを目的としており，幅広い分野からの参加，発表を歓迎する．

招待講演予定者：杤山　修（原子力安全研究協会：非会員）

R24. 鉱物資源と地球物質循環（Mineral resources and global material cycles）［鉱物資源部会］

世話人：中村謙太郎*（東京大；kentaron@sys.t.u-tokyo.ac.jp）・加藤泰浩（東京大）・岩森　光（JAMSTEC）

Convener: Kentaro Nakamura* (Univ. Tokyo), Yasuhiro Kato (Univ. Tokyo), Hikaru Iwamori (JAMSTEC)

近年，海底鉱物資源をはじめとする新しい資源の開発に向けた動きが活発化し，鉱物資源への注目が高まっている．鉱物資源の形成過程に関わる様々な元素の輸送・濃集過程は，ダイナミックな地球における物質循環と分化の一部に他ならず，鉱物資源の成因を考える上では，地球全体にまたがるグローバルな物質循環とその変遷，そしてその資源形成との関わりについての包括的な理解が不可欠である．本セッションでは，鉱物資源そのものに加え，これまで着目されることが少なかった資源形成をとりまく地球表層-内部環境，テクトニックセッティング，ダイナミクスと，資源の形成メカニズムとの関わりについても，グローバルに議論する場を提供したい．

招待講演予定者：平田岳史（東京大：非会員）

アウトリーチセッション

OR. 日本地質学会アウトリーチセッション（Outreach Session）＊一般公開，ポスター発表のみ

世話人：星　博幸*（愛知教育大：hoshi@auecc.aichi-edu.ac.jp）

Convener: Hiroyuki Hoshi* (Aichi Univ. Edu.)

研究成果を社会に発信する場として設けられたセッション．地質学と関連分野を対象とし，開催地とその周辺の地質や地学に関する研究紹介，社会的に注目されている地質および関連トピックの研究紹介，特定分野の研究到達点や課題の解説など．客層は会員（専門家）ではなく市民であることに注意．申込多数の場合は行事委員会にて採否を検討する．p.（***）の6項（3）を参照．

セッション別招待講演者の紹介

世話人や専門部会から提案され，行委委員会が承認した招待講演者（予定も含む）をご紹介します．講演時間は変更になる場合があります．

T2．海底地盤変動学のススメ

■馬場俊孝（徳島大：非会員）30分

馬場氏は，長年にわたって，津波モデリングの研究に携わってきた．特に，海底地すべりに関する津波の研究は，有名で，駿河湾での地震による海底地すべりに起因する津波の研究や，南海トラフでの研究など，多数の業績を残している．このように，海底地すべりに関して議論をするときに，津波モデリングの観点からの知見を講演を通じて，インプットするには最もふさわしい人物である．

■松山昌史（電中研：非会員）15分

松山氏は，原子力リスク研究センターにおいて，津波工学，海岸工学の観点から，海底地すべりによる津波リスクについて評価する事業に携わってきた．その中で，地盤工学的なアプローチや実験的な手法を取りまとめる役割を中心的に担い，沿岸における海底地すべり災害について工学的立場で，総合的に理解することを強く進めてきた．このような地質学には基づかない，海底地すべり研究は，海底地すべりを多角的視点で考察する上では欠かせない存在である．

T3．スロー地震に関する地質学的・実験的・地震学的研究の連携と進展

■小原一成（東京大地震研：非会員），30分

小原氏は，世界を代表するスロー地震研究者である．南海トラフを中心に地震・測地観測で得られたスロー地震像を紹介して頂くことで，暖かい沈み込み帯におけるスロー地震の発生過程と発生環境を地質学的に理解していくうえでの，示唆に富んだ重要な提案と議論がなされることが期待出来る．

■西川友章（京都大・防災研：非会員），30分

西川氏は，地震学を専門とする新進気鋭の若手研究者である．海底地震観測網と陸域地震・測地観測網に基づいて明らかにした日本海溝におけるスロー地震の全貌をまとめた論文を昨年Science誌に公表した．西川氏の招待講演はタイムリーであり，今後日本海溝のような冷たい沈み込み帯におけるスロー地震の発生過程と発生環境を地質学的に理解していくうえでの，示唆に富んだ重要な提案と議論がなされることが期待出来る．

T4．二次改変された過去の弧-海溝系の復元：日本およびその他の例

■沢田　輝（JAMSTEC：会員），30分

沢田会員は大学院での研究テーマ以来，地球史を通した大陸地殻の成長パタンの解明を目指し，特に先カンブリア時代の多様な年代の砂岩中の砕屑性ジルコン年代の測定を行った．また並行して世界中の公表されたデータのコンパイルを行い，従来とは大きく異なる大陸地殻成長曲線を提案した．日本における堆積岩研究では従来にない大きな時空間を対象にした研究を進めている同会員に最新の成果と研究展望を紹介していただきたい．

■今岡照喜（山口大：会員），30分

今岡会員は，中国地方の中生代－新生代火成岩類について詳細な野外調査と岩石学的分析を主とする研究を長年続けてきた．中でも白亜紀から古第三紀にかけて日本列島に広大な弧地殻を作った大規模珪長質マグマ活動の産物であるバソリスや大規模カルデラのマグマ活動史，岩石学，年代学，形成過程を議論するとともに，それに伴う苦鉄質マグマについても検討してきた．これらの研究の総括を本セッションで紹介していただきたい．

T5．文化地質学

■三澤裕之（秀明大学：非会員），30分

三澤氏（山形考古学会会員）は，山形県の社会科高校教員として教育に携わりながら山形県内の遺跡の研究を行っている．山形県立西高等学校校長退職後に山形県学事文書課に勤務しながら，これまで収集した考古資試料の整理を行っている．三澤氏は40数年前に山形県最上町の材木遺跡発掘に参加し，当時発掘後の遺跡地表面(畑)で数10個の緑色の石を採集した．それらの一部には玉に加工途中の遺物があり，近年この緑色の石がヒスイかどうかを明らかにすべく，フォッサマグナミュージアム，東北大学等ヒスイに関連する研究者に鑑定を依頼した結果，緑色の石英であることが判明した．しかし，研究者らもこのような緑色の石英が国内に産する例を見たことがないという状況である．また三澤氏は山形県近隣の縄文遺跡の出土品でヒスイ製と記載されているものを調査し，比重の測定からいくつかが緑色の石英であることを明らかにしつつある．本招待講演では，材木遺跡で表面採集された緑色の石英の特徴，鉱物鑑定の結果，産地推定の困難さの現状，東北地方の縄文遺跡にも流通していた緑色石英についてご講演いただく予定である．

■藤本幸雄（秋田地学教育学会：会員），30分

藤本会員は，高校教員退職後も秋田地学教育学会会員，日本地質学会会員としてこれまで東北地方の基盤岩類や秋田県の新第三系，第四系の地質の調査研究や普及教育を行ってきている．また男鹿ジオパーク，白神海岸ジオパークも支援してきている．藤本会員は縄文時代後期の伊勢堂岱遺跡（北秋田市）の環状列石，縄文時代中期～後期の大湯環状列石（元鹿足市）の地質学的，岩石記載学的な面から調査を行っている．大湯環状列石の石材は，岩石の種類,礫径,円磨度，帯磁率などについて検討し，あせて周囲の河床礫，石材由来の岩体の節理系，帯磁率の調査を通して石材の由来と採集地の評価を行っている．伊勢堂岱遺跡についても岩石の種類,礫径,円磨度，帯磁率などに加え河床礫，段丘礫，湯車層（段丘礫層の下に分布）について検討し，石材の採集地を推定している．これまでもトピックセッション「文化地質学」では遺跡の石材についての研究が多く発表されているが，藤本会員の環状列石の研究のような，河床礫，段丘礫，段丘の下位の地質等総合的を検討するような研究は少ない．本招待講演では，環状列石の石材の種類だけでなく，礫径や円磨度を元に，周囲の河川の河床礫，段丘礫等から石材の採集地を絞り込んでいった過程につい

て講演していただく予定である．

T6.「災害多発社会における学術資料・標本散逸問題―大学・博物館は何をすべきか―」

■大路樹生（名古屋大博：会員），30分

大路会員は，現在名古屋大学館長の重責を担っており，日本の国立大学や大学博物館における標本の現状・問題点および動向をよく把握・認識している研究者である．またご本人も，海洋生物化石研究の第一人者として世界各地での調査・試料採取また，それら学術標本を用いた様々な研究論文や一般普及書を記述している．加えて研究者としての標本問題に関する視点も合わせ持ち，招待講演者としてふさわしい．

T7. 地球年代学が拓く高精度火山噴火史・発達史

■伊藤久敏（電中研：会員），30分

伊藤会員は，近年LA-ICP-MSを用いて精力的に火成岩のジルコンU-Pb年代測定を行っている．特に最近は更新世の火山噴出物にこの手法を適用している．U-Pb年代を適用するにはこの地質年代は若いが，迅速かつ高精度な年代値を得ることに挑戦している．さらに，海外の研究者との共同研究も精力的に取り組み，U-Th/He年代を併用したダブル年代測定にも取り組み始めた．一連の研究は特に大規模珪長質噴火活動史を明らかにする上で重要な研究である．

■望月伸竜（熊本大：会員），30分

望月会員は古地磁気学を専門とし，特に最近は，火山岩を対象とした高分解能の古地磁気年代推定に取り組んでいる．従来，困難とされていたテフラ層の定方位採取法を開発し，その残留磁化方位と永年変化率から，大規模カルデラ噴火の継続時間に関する新知見を見出している．この手法は，溶岩とテフラ，あるいは溶結凝灰岩とそのco-ignimbrite ashの対比や時間差推定などにも有効である．これらの関連研究例を紹介してもらい，火山地質学・編年学における新たな展開の契機となることを期待したい．

R1. 深成岩・火山岩とマグマプロセス

■今山武志（岡山理科大：会員）30分

今山会員は，地質年代学，岩石学，テクトニクス学を専門とし，ヒマラヤ造山帯を中心に，国際的なフィールドで研究を展開している．最近はモンゴルやパキスタンなどの火山岩・深成岩類の研究にも取り組んでおり，K-Ar法やU-Pb法による年代測定と岩石学的・地球化学的分析を行って，マグマの成因や地殻の進化過程，テクトニクスを解明している．これらの研究をはじめとし，世界各地のフィールドワークで蓄積された年代学的・岩石学的データを基に，北東アジア地域における地質構造発達史の概要と最新の知見について講演していただく．

R3. 噴火・火山発達史と噴出物

■伴　雅雄（山形大：会員）30分

伴会員は，火山学・岩石学を専門とし，主に東北日本地域の火山を対象に研究を展開している．地質学的，岩石学的，地球化学的データを基に，個々の火山の形成史や深部マグマプロセスを高分解能で解明する研究事例を積み重ねている．特に最近は，活動的火山である蔵王火山において，将来の噴火推移予測や防災・減災対策に関する研究も精力的に行っている．本講演では，これら最新の研究成果を交えながら，火山地質学および岩石学的データをどのように噴火予測に活かせるかを紹介していただく．

R8. 海洋地質

■沖野郷子（東京大：非会員）30分

沖野氏は，主に地球物理学的手法を用いて，中央海嶺拡大系のテクトニクスについての研究を進めている．2019年からは，海洋トランスフォーム断層を利用して海洋地殻生産プロセスの時間変動を明らかにすることを目的とするプロジェクトであるMOWALL（Moho Observation along transform fault WALLs）を主導している．沖野氏には，MOWALLプロジェクトの概要を紹介頂き，海洋リソスフェア研究の今後の方向性についてご講演頂く．

■谷　健一郎（国立科学博：会員）30分

谷会員は，火成岩中のジルコンを用いたU-Pb年代測定の国内の第一人者であり，同手法を軸にして海洋性島弧の構造発達史の解明についての研究を進めている．谷会員には，MOWALLプロジェクトの一環として実施された2020年1月の白鳳丸による南サンドイッチ弧の最新の成果についてご講演頂く．

R9. 堆積

■田村　亨（産総研：会員）30分

田村会員は，沿岸域の地層・地形の形成過程について精力的に研究を行っている．コア試料の層相解析や古環境解析などの従来的な手法に加え，地中レーダ探査やOSL年代測定といった最新の技術を組み合わせることで，高分解能で時空間的に解析する手法を開発し，世界各地の海岸砂丘やデルタなどの研究に適用してきた．このような進歩的な研究による貢献が認められ，2014年度には日本地質学小澤儀明賞を受賞している．本招待講演では，メコンデルタの地層・形成過程に関するレビューと最新の研究成果についてお話しして頂く．

R10. 炭酸塩岩の起源と地球環境

■小宮　剛（東京大：会員）30分

小宮会員は，初期地球の表層テクトニクスや物質循環，海水組成の変遷と生命進化などに関する研究成果を数多く発信されている．特に近年，カナダ・ラブラドルから世界最古の表成岩を発見し，初期地球の表層環境と生命の起源，進化を解読するための重要な成果を提出された．招待講演では，世界最古の炭酸塩岩の化学組成分析から明らかになった初期太古代の海洋組成や初期生命の痕跡について最新の話題を講演頂く予定である．

R11. 石油・石炭地質学と有機地球化学

■早稲田　周（石油資源開発：非会員（有機地球化学会会員））30分

早稲田氏は，有機地球化学的手法を用いた石油・天然ガスの根源岩能力評価や探鉱に関する研究に長年取り組んでおられ，この分野をリードしてきた研究者の一人である．招待講演では，安定同位体およびクランプト同位体を用いた天然ガス評価法の最近の進展について話題を提供して頂く予定である．

R12. 岩石・鉱物の変形と反応

■西山忠男（熊本大：会員）30分

西山会員は，これまでに長崎変成岩などの野外調査をベースとして変成作用・交代作用における反応帯形成や，脱水反応に伴う水圧破砕など，岩石の反応と変形・破壊現象を結びつける独創的な研究を進めてこられた．これらの沈み込み帯での流体が関与する反応プロセスは，近年，観測が進んでいるプレート境界でのさまざまな地震現象の本質

的な理解の鍵を握っている可能性も高い．本講演では，西山会員の最近の大きな発見であるマイクロダイヤモンドと超高圧条件におけるシュードタキライトについてのエキサイティングな話を紹介していただく．

■纐纈佑衣（名古屋大：：会員）30分

纐纈会員は，レーザーラマン分光分析を用いた炭質物温度計（Raman CM thermometry）の手法開発から実践に至るまで携わる数少ない研究者であり，その対象も堆積岩・変成岩から断層，隕石と多岐にわたる．温度・圧力・時間・変形が多様に影響する炭質物の熟成度スペクトラムは，地質体の解析にいかにして役立てられるのか．深部から浅部，100万年から秒単位までの適用例をご紹介いただく．

R13．沈み込み帯・陸上付加体

■大坪　誠（産総研：会員）30分

大坪会員は構造地質学を専門としている．野外調査を中心に据えながら主に古応力解析と物性を組み合わせて，構造発達史に定量的な物理量を付与して解釈する研究に魅力がある．近年，沖縄トラフの背弧拡大場の形成史を琉球トレンチとの相互作用として注目し，陸上調査だけでなく，海洋掘削を見据えたプロジェクトの立案代表者として活躍している．今回は，海洋掘削プロジェクトの提案内容とその背景を中心とした講演をお願いする予定であり，沈み込み帯・陸上付加体セッション参加者との活発な議論が期待できる．

■仲田理恵（東京大・地震研：非会員）30分

仲田氏は海底地震計の波形トモグラフィーを用いて沈み込み帯の速度場の解析を行ってきた，地球物理学者である．特に紀伊半島沖南海トラフ浅部の上盤での低速度帯の存在を指摘し，地質学的な付加体構造発達史に新たな議論を提供した．近年ではスロー地震のメカニズムにも視野を広げ，日向灘沖のスロー地震帯における海洋掘削プロジェクトの立案リーダーを務めている．今回は，日向灘沖海洋掘削プロジェクトの提案内容とその背景を中心とした講演をお願いする予定であり，沈み込み帯・陸上付加体セッションの参加者と活発な議論が期待できる．

R14．テクトニクス

■中村佳博（産総研：会員）30分

中村会員は，野外地質調査に加え，高温高圧実験に基づく炭質物のグラファイト化の反応速度論的解析を武器に，変成岩・付加体地域の構造地質学的研究に新風を吹き込む気鋭の研究者である．中村会員は近年，長野県大鹿村周辺の「大河原」図幅作成のための調査を行われており，その過程で得られた新たな知見をもとに，鹿塩マイロナイトおよび領家帯・三波川帯の地質情報から復元する日本列島のテクトニクスに関してご講演を頂く．

■志村侑亮（名古屋大：会員）30分

名古屋大学の博士課程に在学中の志村会員は，紀伊半島中央部に分布する付加体と高圧変成岩類の研究を精力的に進められている若手研究者である．紀伊半島中央部は，秩父帯が欠損し，四万十帯と三波川帯が直接接するという点において，日本列島のテクトニクスおよび付加体の構造発達に重要な意味を持つ地域であり，詳細な野外地質調査と年代・被熱・構造解析に基づく新たな知見をご紹介いただく．

R15．古生物

■磯崎行雄（東京大：会員）30分

磯崎会員は，顕生代の大量絶滅事件，原生代末の後生動物の出現イベント，さらに日本列島のテクトニクスなど，多岐にわたる研究を様々な手法に基づいて展開している．地質学会名古屋大会では，生物進化に関する最近の研究成果をご紹介頂き，来場の方々との活発な議論が行われることを期待している．

R22．地球史

■杉谷健一郎（名古屋大：会員）30分

杉谷会員は西オーストラリアや南アフリカの太古代の珪質堆積岩に含まれる有機物（炭質物）の微細構造の解析から，初期生命の進化に関する研究を精力的に行ってきた．欧米豪の研究者達との共同研究も多く，国際的に活躍されている．招待講演では，地球初期の生命の姿と進化について，最新の成果を踏まえて紹介していただく．

■長谷川 精（高知大：会員）30分

長谷川会員は，地球の気候変動と惑星環境の歴史を地層や堆積物の解析から復元する研究を行っている．風成層から過去の大気循環システムの復元，湖成年縞から白亜紀温室地球の年スケール気候変動の復元，さらには地球の地層との比較から火星環境の復元まで，多岐にわたる．招待講演では，最新の成果を踏まえて研究を紹介していただく．

R23．原子力と地質科学

■杤山　修（原子力安全研究協会：非会員）30分

杤山氏は，地層処分における性能評価に欠かせない核種移行研究を長年にわたり進められ，国内外における核種移行研究とその議論をリードしてきた．また本セッションとの共催である日本原子力学会バックエンド部会部会長（2002年～2003 年）として部会を指導するとともに，バックエンド部会の発展に尽くして来られた業績を有する．とくに原子力安全委員会等の国の委員会で主査等の要職を歴任し，各課題の審議にも係わるなど，現在も第一線で活躍しており，昨年は，原子力環境整備機構（NUMO）の技術報告書の国内レビュー委員会の委員長も務められた．今回，そのレビュー結果に関して，とくに地層処分に関する地質環境分野の現状や課題について紹介頂く．

R24．鉱物資源と地球物質循環

■平田岳史（東京大：非会員）30分

平田氏は，世界最先端の極微量分析・局所分析を駆使した研究で世界をリードする分析化学の第一人者である．平田氏によって活発に研究開発が行われている超高精度な局所分析技術，局所分析を応用した2D・3D元素マッピング技術，様々な時間スケールで適用可能な高精度同位体年代学は，鉱物資源分野にも革命をもたらし得る画期的な成果として注目される．本講演では，当該分野の最新の話題を提供して頂く予定である．そのお話を聞ける機会は，本セッションに関係する全ての研究者にとって非常に有意義なものになると期待される．

名古屋大会巡検コース紹介

1）会員・非会員問わずお申込頂けます.
2）実施日程の異なる場合，複数の巡検コースへの申込を行うことができます.
3）最小催行人員に満たない場合や，安全確保に問題があると考えられる場合は，コース内容の一部変更や巡検中止等の措置をとることがあります.
4）本学会ならびに名古屋大会実行委員会は巡検参加者に対し，巡検中に発生する病気，事故，傷害，死亡等に対する責任・補償を一切負いません．これらについては，巡検費用に含まれる保険（国内旅行傷害保険団体型）の範囲でのみまかなわれます.
5）集合・解散の場所，時刻等は変更することがあります．大会期間中は会場内の掲示板等で案内に注意して下さい．また，案内者から直接ご連絡することもあります.
6）中学生以下が巡検に参加する場合は，必ず保護者同伴でお申し込み下さい．なお，バスや徒歩等移動に際して介助が必要な方への対応は致しかねます．ご了承ください.
7）アウトリーチ巡検を含むすべてのコースの案内書は，地質学雑誌に掲載予定です．CD-ROMは作成しません．また，雑誌発行と同時にJ-STAGE上で公開します．参加者へは，コース毎の案内書を巡検当日に配布します.
8）会期後，大会報告記事（ニュース誌11月号を予定）において，参加者氏名を掲載させて頂きます．あらかじめご了承ください.
9）取消料は，巡検実施日によりコース毎に異なります．（p.（6）参照）．申込締切後の変更・取消は，直接学会事務局（東京）にFAX又はe-mailにてご連絡下さい.

コース一覧表

	巡検名	略称	日程	備考
A	名古屋城の石垣を見る	名古屋城	9/12（土）	**アウトリーチ**
B	中新統師崎層群の球状炭酸塩コンクリーションと深海性動物群化石	師崎層群	9/8（火）	**プレ**
C	美濃帯海洋性岩石の層序	美濃帯ジュラ紀付加体	9/12（土）～9/13（日）	
D	紀伊半島中央部に分布する白亜紀の付加体～高圧型変成岩類	四万十帯と三波川帯	9/12（土）～9/13（日）	
E	岐阜県西部・春日地域の火成岩と接触変成岩	火成岩とスカルン	9/12（土）	
F	愛知県新城市の中央構造線と周辺部の地質	中央構造線	9/12（土）	
G	古琵琶湖層群の鮮新世伊賀非海生動物群	古琵琶湖層群	9/12（土）	
H	瀬戸層群の中新統～更新統陸成層と陶土	瀬戸層群	9/12（土）	

Aコース　名古屋城の石垣を見る

＜略称：名古屋城＞
巡検コース：地下鉄市役所（出発）（9:30）→名古屋市役所→名古屋城→場内で解散（12:30）
主な見学対象：［1］名古屋市役所（石灰岩と由良石），［2］東門（"熊野石"，"岩崎石"），［3］二の丸大手門（"竜山石"），［4］正門（"幡豆石"など），［5］本丸西側石垣（濃尾地震による"不整合"），［6］本丸北側石垣（創建当時の石垣），［7］本丸東側石垣（火災による割れ），［8］旧二之丸東二之門付近（清正石、新補財の花崗岩），［9］本丸搦手馬出（"河戸石"）
日　程：9月12日（土）（日帰り）
定　員（最少催行人数）：30（3）
案内者：西本昌司（名古屋市科学館）・木村有作（名古屋城調査研究センター）
参加費：500円（別途、入城料500円が必要です）
参照地図（1/2.5万）：「名古屋北部」
集合・解散：集合9:20（地下鉄「市役所」２番出口），解散12:30頃（名古屋城内）
その他：
・本巡検はアウトリーチ巡検につき一般市民を優先します.
・2km程度歩きます.
・城内で解散しますので，ひきつづき本丸御殿などをご覧ください.

Bコース　中新統師崎層群の球状炭酸塩コンクリーションと深海性動物群化石

＜略称：師崎層群＞
巡検コース：名古屋大学（出発）（9:00）→山海→片名→大泊→名古屋大学（解散）（16:00）
主な見学対象：［1］スナモグリコンクリーション［2］玄能石コンクリーション［3］巨大ドロマイトコンクリーション［4］深海性動物群化石［5］タービダイト性の堆積構造

日　程：9月8日（火）（日帰り）
定　員（最少催行人数）：15（12）
案内者：村宮悠介（深田地質研究所）・氏原　温（名古屋大学）・大路樹生（名古屋大学）・吉田英一（名古屋大学）
参加費：10,500円
参照地図（1/2.5万）：「師崎」
集合・解散：集合8:50（名古屋大学豊田講堂前），解散16:00頃（名古屋大学）
その他：
・参加費に昼食代は含まれません．各自持参してください．
・海岸露頭での見学が多いので滑りにくい靴で参加のこと
・移動にはマイクロバスを使用します．

Cコース　美濃帯海洋性岩石の層序

＜略称：美濃帯ジュラ紀付加体＞
巡検コース：JR岐阜駅（出発）（9:00）→本巣市下大須→山県市神崎経由→山県市伊往戸→山県市富永（泊）→山県市今島→山県市西洞谷→JR岐阜駅（解散）（16:00）
主な見学対象：［1］シスウラリアン～ローピンジアン玄武岩類－Mn質珪質岩－ドロマイト－放散虫チャートの模式セクション，［2］シスウラリアン含Shikamaia石灰岩，［3］砕屑性ドロマイト（鉱山見学），［4］グアダルピアン～ローピンジアン生砕性石灰岩，［5］上部三畳系珪質ミクライト・チャート互層，［6］シスウラリアン層状石灰岩
日　程：9月12日（土）～9月13日（日）（1泊2日）
定　員（最少催行人数）：16（13）
案内者：佐野弘好（九州大学名誉教授）・山縣　毅（駒澤大学）
参加費：22,500円
参照地図（1/2.5万）：「下大須」，「谷合」，「下洞戸」
集合・解散：集合12日8:50（JR岐阜駅北口団体バス乗車場），解散13日16:00頃（JR岐阜駅）
その他：
・初日12日の昼食は各自持参してください．
・浅瀬を歩く予定．長靴の準備が望ましい．
・移動にはマイクロバス及びジャンボタクシーを使用します．

Dコース　紀伊半島中央部に分布する白亜紀の付加体～高圧型変成岩類

＜略称：四万十帯と三波川帯＞
巡検コース：JR名古屋駅（出発）（7:00）→川上村→吉野町→三重県松阪市（泊）→東吉野村→吉野町→五條市→近鉄下市口駅（15:00）→JR名古屋駅（解散）（18:00）
主な見学対象：［1］四万十帯高原川コンプレックス（付加体），［2］四万十帯槙尾コンプレックス（付加体），［3］四万十帯麦谷コンプレックス（弱変成付加体）と蛇紋岩，［4］四万十帯麦谷コンプレックス（弱変成付加体），［5］三波川帯色生コンプレックス（緑泥石帯），［6］三波川帯香東コンプレックス（ザクロ石帯）とカタクレーサイト
日　程：9月12日（土）～9月13日（日）（1泊2日）
定　員（最少催行人数）：15（12）
案内者：志村侑亮（名古屋大学）・竹内　誠（名古屋大学）・常盤哲也（信州大学）
参加費：32,000円
参照地図（1/2.5万）：「吉野山」，「新子」，「洞川」
集合・解散：集合12日6:50（JR名古屋駅太閤通口噴水前），解散13日15:00頃近鉄下市口駅，13日18:00頃（JR名古屋駅）
その他：
・初日12日の昼食は各自持参してください．
・移動にはマイクロバスを使用します．

Eコース　岐阜県西部・春日地域の火成岩と接触変成岩

＜略称：火成岩とスカルン＞
巡検コース：名古屋大学（出発）（8:00）→旧春日村美束・川合周辺→JR名古屋駅（解散）（17:00）
主な見学対象：［1］貝月山花崗岩類，［2］接触交代変成作用を受けた泥質岩，石灰岩，塩基性岩，［3］スカルン鉱物，［4］美濃帯に貫入するランプロファイア岩脈
日　程：9月12日（土）（日帰り）
定　員（最少催行人数）：15（12）
案内者：榎並正樹・纐纈佑衣・加藤丈典（以上3名，名古屋大学）・壺井基裕（関西学院大学）・丹羽健文（名古屋鉱物同好会）
参加費：11,500円
参照地図（1/2.5万）：「美束」
集合・解散：集合7:50（名古屋大学豊田講堂前），解散17:00頃（JR名古屋駅）

その他：
・参加費に昼食代は含まれません．各自持参してください．
・移動にはマイクロバスを使用します．

Fコース　愛知県新城市の中央構造線と周辺部の地質

＜略称：中央構造線＞
巡検コース：名古屋大学（出発）（8:00）→新城市横手→博物館→長篠城趾→長篠中央構造線→阿寺→JR名古屋駅（解散）（18:00）
主な見学対象：［1］中央構造線，［2］領家片麻岩，［3］貫入岩，［4］三波川変成岩，［5］鳳来寺自然科学博物館，［6］阿寺七滝礫岩
日　程：9月12日（土）（日帰り）
定員（最少催行人数）：15（12）
案内者：道林克禎（名古屋大学）・平内健一（静岡大学）・西村拓真（鳳来寺山自然科学博物館）
参加費：13,000円
参照地図（1/2.5万）：「三河大野」，「熊」
集合・解散：集合7:50（名古屋大学豊田講堂前），解散18:00頃（JR名古屋駅）
その他：
・参加費に昼食代は含まれません．各自持参してください．
・移動にはマイクロバスを使用します．

Gコース　古琵琶湖層群の鮮新世伊賀非海生動物群

＜略称：古琵琶湖層群＞
巡検コース：JR名古屋駅（出発）（8:00）→東名阪・名阪国道→下柘植IC→三重県伊賀市喰代→中村→平田→畑村→畑村真泥→JR名古屋駅（解散）（16:00）
主な見学対象：［1］三重県伊賀市喰代（上野層中村部層），［2］同中村（上野層中村部層，化石層，ノジュール），［3］同平田（中村部層，ゾウ・ワニ足跡化石発見場所，大山田公民館），［4］同畑村（中村部層，イガタニシ化石層，服部川Ⅰ・Ⅱ火山灰層），［5］同畑村真泥（伊賀層炊村部層，足跡化石，ヒシ化石）
日　程：9月12日（土）（日帰り）
定　員（最少催行人数）：15（12）
案内者：松岡敬二（元豊橋市自然史博物館）・井上恵介（名古屋大学）・川瀬基弘（愛知みずほ大学）
参加費：11,000円
参照地図（1/2.5万）：「上野」
集合・解散：集合7:50（JR名古屋駅太閤通口噴水前），解散16:00頃（JR名古屋駅）
その他：
・参加費に昼食代は含まれません．各自持参してください．
・服部川沿いの露頭が中心．滑りにくい長靴等の準備が望ましい．
・移動にはマイクロバスを使用します．

Hコース　瀬戸層群の中新統～更新統陸成層と陶土

＜略称：瀬戸層群＞
巡検コース：名古屋大学（出発）（9:00）→ 愛知県豊田市八草町 → 同瀬戸市 → 岐阜県多治見市 → JR多治見駅前（希望者降車・解散）→ 名古屋大学（解散）（17:00）
主な見学対象：［1］愛知県豊田市八草町（瀬戸層群瀬戸陶土層：陸成堆積相，古土壌，木節粘土，同層群矢田川層），［2］同瀬戸市（風化花崗岩，瀬戸層群瀬戸陶土層：蛙目粘土），［3］岐阜県多治見市（瀬戸層群土岐口陶土層：木節粘土，陸成堆積相，大型植物化石）
日　程：9月12日（土）（日帰り）
定　員（最少催行人数）：15（12）
案内者：葉田野 希（長野県環境保全研究所）・吉田孝紀（信州大学）・笹尾英嗣（日本原子力研究開発機構）
参加費：10,500円
参照地図（1/2.5万）：「瀬戸」，「平針」，「土岐」
集合・解散：集合8:50（名古屋大学豊田講堂前），解散16:00頃（JR多治見駅前），17:00頃（名古屋大学）
その他：
・参加費に昼食代は含まれません．各自持参してください (休憩場所にコンビニ・売店等あり).
・粘土鉱山での見学になるため、泥濘に対応した靴（長靴など）が必要です．
・希望する方は，JR多治見駅前で降車・解散可能です．
・移動にはマイクロバスを使用します．

日本地質学会*News*

Vol.23 No.4 April 2020

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

第127年学術大会（2020名古屋大会）予告記事……（1）～（22）

表2, 3, 巻末　第11回惑星地球フォトコンテスト審査結果

公募……2
産総研テニュアトラック型研究員（任期付）またはパーマネント型研究員（任期無）公募／千葉大学大学院理学研究院地球科学研究部門教員公募/電力中央研究所地球工学研究所研究員（正職員）公募

各賞・研究助成……2
勝山市ジオパーク学術研究等奨励事業申請者募集／令和2年度筑波山地域ジオパーク学術研究助成金募集／第11回（2020年度）日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦／ 2021年～ 2022年開催藤原セミナーの募集／山田科学振興財団国際学術集会助成

紹介……4
日本の山ができるまで　小泉武栄著（平田大二）

会員の声……5
付加体学の謙虚な巨人，J. Casey Moore教授を悼む（小川勇二郎）

学術大会要旨電子化アンケート結果報告……6

院生コーナー……7
第９回ハットンシンポジウム（下岡和也）

支部コーナー……9
関東支部：2020年度関東支部総会開催（書面会議）のお知らせ，2020年定例総会議案書，2020年度-2021年度 関東支部幹事選挙結果，2019年度の支部功労賞について／お知らせ：西日本支部（みなし発表）

CALENDAR……11

訃報・訃報の取り扱いについて……11

入会申込書……12

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

訂　正

理事選挙開票結果および当選者の名簿の記載に誤りがありました．ここに訂正お詫びいたします．

訂正箇所：日本地質学会News Vol.23, No. 3, 5ページ
(2) 地方支部区選出枠の理事；北海道支部区　立候補者名
（誤）沢田　健　　（正）亀田　純

一般社団法人日本地質学会2020年度総会開催について

2020年4月4日
一般社団法人日本地質学会
会長・代表理事　松田　博貴

2020年度総会を次の次第により開催いたします．

2020年5月23日（土）14：00～15：30
Web会議による開催

1. 議長選出
2. 開会
3. 議案
   第1号議案 2019年度事業報告・決算報告
   第2号議案 代議員および理事選挙結果報告
   第3号議案 2020年度事業計画
   第4号議案 2020年度予算案
   第5号議案 名誉会員の選出
4. 閉会

1. 定款第20条により，本総会は役員ならびに代議員による総会となります．代議員には，総会開催通知とともに総会に必要な資料等を別途お送りいたします（今回は，メール添付）．ご都合で欠席される方は，定款第28条第1項にもとづき，議決権行使書および議決権の代理行使（委任状）により総会に出席したものとして議決権を行使することができます．
2. 正会員は総会に陪席することができます．ただし，総会規則第12条3項により，許可のない発言はできません．

新型コロナウィルス感染拡大防止のため，**学会事務局は原則テレワークを実施し，問い合わせ等についてはメールのみでの対応としています．**皆様にはご不便をおかけしますが，ご理解の程，よろしくお願いいたします．
（参考）新型コロナウィルス感染拡大防止に関する学会の対応（2020年4月10日付）
http://www.geosociety.jp/news/n150.html

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

産総研テニュアトラック型研究員（任期付）またはパーマネント型研究員（任期無）公募

公募課題：「実験岩石学もしくは地球化学的手法に基づくマグマ供給システムおよびその発達過程に関する研究」/「数値シミュレーションによる地震発生過程の研究」/広域地下水流動モデルの構築と長期予測に関する研究」/「地中熱適正利用のための研究開発」/「地圏環境汚染評価および修復技術に関する研究」/「地圏環境における汚染物質の挙動解明および持続可能性に関する研究」/「CCUSの安全性評価に係るモニタリング研究」/「日本周辺海域における海底堆積物に関する研究」/「海洋における物理探査・地質構造に関する研究」/「新生代後期堆積岩地域の地質調査及び地質図作成」

応募締切：2020年5月11日（月）17:00

応募方法：下記より詳細をご確認ください．

https://www.aist.go.jp/aist_j/humanres/02kenkyu/task.html#GSJ

千葉大学大学院理学研究院地球科学研究部門教員公募

1. 職名・人数 准教授またはテニュアトラック助教 1名
2. 公募分野 地球表層科学教育研究領域
・野外での調査，観測，実験に基づいて地球表層の物質循環，環境変動などに関する研究を，新しい視点でかつ国際的に進められる方．
・野外調査を取り入れた教育，および海外教育プログラム（千葉大学のグローバル人材育成事業http://www.chiba-u.ac.jp/engine/index.html）を推進できる方．
3. 着任時期 決定後できるだけ早い時期
4. 担当授業科目 学部の普遍教育科目（いわゆる全学共通の一般教養科目）と専門教育科目（理学部地球科学科）．専門教育科目には，野外実習・室内実験，地球科学演習，卒業研究指導を含む．
大学院（融合理工学府地球環境科学専攻）の授業科目と研究指導
5. 応募資格 博士の学位取得後概ね10年以内の方，または着任時までに博士の学位を取得見込みの方．
6. 待遇・勤務形態 給与は，着任時の本学新年俸制職員給与規定に基づき決定します．
准教授の場合は任期なし．テニュアトラック助教の場合は，任期付助教として着任し，着任後5年目までに実施するテニュア審査で可とされた場合，任期なしに移行します．なお，准教授，助教とも常勤です．
7. 応募書類 以下の項目について，A4用紙で提出してください．
(1) 履歴書 (2) 希望する職階（准教授，テニュアトラック助教，または希望なし）※希望なしの場合は，研究教育業績によって教員審査委員会で判断します．(3) 研究業績リスト（以下の項目に分けて記載）(a) 論文（査読の有無を明記のこと）(b) 総説等 (c) 著書 (d) 科学研究費補助金等の競争的資金の獲得状況 (e) その他（招待講演，受賞歴等）(4) 主要論文の別刷あるいはコピー，5編以内 (5) これまでの研究成果の概要と今後の研究計画（2ページ程度）(6) これまでの教育経験の概要と今後の教育に対する抱負（2ページ程度）(7) 教育研究業績等を問い合わせることのできる方3名の，氏名，連絡先，電子メールアドレス
8. 応募締切 2020年6月1日（月）必着
9. 応募書類の送付先 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
千葉大学大学院理学研究院地球科学研究部門
応募書類は必ず書留郵便で，封筒には「教員公募書類」と朱書きしてください．
10. 応募に関する問い合わせ先
千葉大学大学院理学研究院地球科学研究部門
竹内 望 E-mail：ntakeuch(at)faculty.chiba-u.jp 電話：043-290-2843

電力中央研究所地球工学研究所研究員（正職員）公募

活断層の挙動予測・地震ハザードの定量評価

研究内容/求める人材像：将来にわたって持続可能な社会を作るためには，安全，環境，経済の3つの柱をバランスよく保つ必要があります．電源構成についていえば，原子力，火力，水力などの既存電源を安全かつ効率的に活用しながら，いかに再生可能エネルギーへの転換を図っていくかが鍵となります．そのためには，自然災害などによる電力施設へのリスクを定量化し，安全性向上に寄与する対策を効果的に講じることが重要です．

当所では，地震動や断層変位などの地震ハザードによる電力施設への影響を評価し，そのリスクを低減するために，活断層の研究に取り組んでいます．地形・地質調査，反射法地震探査，地震波トモグラフィ解析など，地表と地下の両面からの活断層調査に加え，断層運動を模擬した岩石・砂箱実験などを実施して，断層の活動性や破壊挙動を定量的かつ統合的に評価しようとしています．

本公募では，地球物理学的観測とそのデータ解析に基づいて，活断層の挙動予測・地震ハザードの定量評価に取り組んで頂ける方を募集します．また，防災・減災のみならず，地熱発電，地下空間の利用とそのアセスメントなどの課題についても，地球物理学的な視点から意欲的に取り組んで頂ける方を歓迎します．

当面の研究課題：活断層の震源断層評価手法の合理化
研究専門分野/専攻学科：数物系科学，地球惑星科学
学歴：修士または博士課程修了者（新卒・キャリアいずれも可）
募集部門：地球工学研究所
募集期日：2020年5月31日
詳しくは，以下をご参照ください．
https://recruit.denken.jp/kadai/post-399/
https://recruit.denken.jp/recruit/info.html

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します．

勝山市ジオパーク学術研究等奨励事業申請者募集

勝山市全域をエリアとする「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」のフィールドを対象とした学術調査及び研究を支援し，学術資料の蓄積を図るために調査研究費の助成を行います．

補助対象研究
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークに関する地形・地質調査研究及びその活用方法，地形・地質遺産及びそれに関わる地域資源を活用した地域の活性化に関する調査研究で次に掲げるものとします．
(1) 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークを対象とした地形・地質調査研究
(2) 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークと地域の関わり等に関する社会・人文科学調査研究
補助対象者
以下の個人もしくはグループ
(1) 大学に在籍する学生又は大学院生
(2) 大学，研究機関等に所属する教員又は研究員
(3) その他市長が認めた研究者
補助金の額等
(1) 補助金の交付額 予算の範囲内において，1件あたり上限20万円
（補助対象経費が20万円未満の場合は，その該当額）
(2) 補助対象経費
・原材料の購入等に要する経費
・消耗品の購入に要する経費

・研究員等に係る在籍大学，所属機関等の所在地から勝山市までの 往復交通費及び勝山市 滞在中の宿泊費
・調査地までの移動や調査に必要な車両等の借り上げ料の実費
・その他研究活動に要する経費で市長が認めるもの

応募締切　令和2年6月1日

詳細は，以下をご参照ください．
https://www.city.katsuyama.fukui.jp/soshiki/11/11808.html

令和2年度筑波山地域ジオパーク学術研究助成金募集

1. 趣旨

筑波山地域ジオパークの地域資源を対象とした研究を助成することで，当ジオパークの地域の特性を明らかにする研究成果を蓄積することを目的とする．

2. 助成対象研究

以下の研究のうち，令和3年2月末日までに完了するものとする．

(1) 筑波山地域ジオパークにおける地球科学分野の研究
(2) 筑波山地域ジオパークにおける生態，生物学分野の研究
(3) 筑波山地域ジオパークにおける歴史，文化に関する研究
(4) 筑波山地域ジオパークにおける地域振興に関する研究
(5) 筑波山地域ジオパークにおける教育に関する研究

3. 助成対象者

以下の個人または団体のうち，研究開始から2年以内にその成果を学会で発表，もしくは学術雑誌等に投稿できるもの．また，筑波山地域ジオパーク推進協議会が開催するイベント等において，口頭発表を行うことができるもの．

(1) 大学あるいは研究機関に籍を置く大学生，大学院生，研究者
(2) 小学校，中学校，中等教育学校，高等学校，特別支援学校の教員
(3) その他，選考委員会が認めた者

4. 助成額と採択件数

1件あたり上限20万円．1～2件程度．

5. 応募締切　令和2年5月31日（必着）

応募方法，提出先等はウェブサイトをご確認ください．
https://tsukuba-geopark.jp/page/page000559.html

第11回（2020年度）日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦

対象分野

人文学，社会科学及び自然科学にわたる全分野

対象者

以下の①②の条件を満たす者を対象とします．

なお，推薦に当たっては，論文等の業績のみにとらわれず，将来，我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な者，経済的に困難な状況や研究施設が必ずしも十分ではない等の厳しい研究環境の下でも創意工夫を凝らして主体的に研究を進めている者など多様な観点から推薦願います．

①我が国の大学院博士課程学生（海外からの留学生を含む）であって，令和2（2020）年4月1日において34歳未満の者で，令和2（2020）年5月1日において次の1）から4）のいずれかに該当する者

1）区分制の博士後期課程に在学する者
2）一貫制の博士課程3年次以上の年次に在学する者
3）後期3年のみの博士課程に在学する者
4）医学，歯学，薬学又は獣医学系の4年制博士課程に在学する者

②大学院における学業成績が優秀であり，豊かな人間性を備え，意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいる者

総授賞数

授賞数は16名程度とし，受賞者には，賞状，賞牌及び副賞として学業奨励金110万円を贈呈します．

受付期間

令和2（2020）年6月1日（月）～5日（金）17:00（締切）**（学会締切5月18日（月））**

推薦書類の提出先及び問い合わせ先

推薦書類は下記へ，配達記録の残る方法での送付によって提出してください．なお，配達会社のホームページ等で到着の確認をしてください．

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-1
独立行政法人日本学術振興会
人材育成事業部研究者養成課「日本学術振興会 育志賞」担当
TEL 03-3263-0912　FAX 03-3222-1986
http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html

2021年～2022年開催 藤原セミナーの募集

1. 対象分野

自然科学の全分野

2. 応募資格

わが国の大学等学術研究機関に所属する常勤の研究者

3. 開催件数

2件以内

4. 開催費用援助額

1件につき　12,000千円　以内（総額24,000千円以内）

5. セミナーの要件

(1) セミナーは，国際的にも学問的水準の高いものとし，そのテーマはなるべく基礎的なもので，関連分野を含めた発展に寄与するものであること．但し二国間会議，定期的に行われる国際会議，およびその準備会議，サテライト会議は対象としない．
(2) 参加者は，50～100人程度とし，外国人研究者が参加者の5分の1程度含まれること．なお，国内外の優れた研究実績を有する若い専門研究者の参加を奨励する．
(3) セミナー開催対象期間は，2021年1月1日～2022年12月31日
(4) セミナーの開催地は，日本国内であること．
(5) セミナー開催日数は，2～4日以内とする．
(6) 参加者が，セミナー開催期間中，起居を共にすることを原則とし，計画された講演・討論のほか，個人的な討論など自由な雰囲気で学問的な交流と人間的接触を深め，永続する協力の基盤を作るようなものであること．

6. 申請受付締切

2020年7月31日（金）（必着）**（学会締切7月3日（金））**

7. 当財団が支給する経費

セミナー開催に直接必要な経費として当財団が認めたもので，その費目は次のとおりとする．

(1) 準備費：準備費は，セミナー開催の準備のために必要な国内外旅費，印刷製本費，通信運搬費，会議費，賃金，消耗品費，雑役務費等とする．
(2) 海外参加者旅費
(3) 国内参加者旅費
(4) セミナー経費：セミナー経費は，セミナー開催期間中に必要な組織責任者等の旅費，印刷製本費，通信運搬費，会議費，レセプション経費，賃金，消耗品費，雑役務費等とする．

8. 申請の方法

セミナー開催希望者は，「藤原セミナー開催申請書」(1通）を，所属組織長を経由して当財団に提出すること．尚，著名な参加予定者については，セミナーのテーマに関する主要論文（5名以内1人につき1篇，コピーで可）を添付のこと．

申請書提出先・連絡先

〒104-0061　東京都中央区銀座3-7-12
公益財団法人　藤原科学財団
TEL（03）3561-7736　FAX（03）3561-7860
藤原科学財団ホームページ
http://www.fujizai.or.jp

山田科学振興財団 国際学術集会助成

本財団は，以下の開催趣旨のもとに計画される自然科学の基礎的分野における国際学術集

会について，「山田コンファレンス」もしくは「山田シンポジウム」として開催することを希望する提案を広く募集し，その主たる開催費を援助いたします．援助額は，最大800万円です．1件程度を採択する予定です．

1）基礎科学の適切なテーマについて，国際的視野で最高レベルの研究の現状を総括する．

2）基礎科学研究者の世代間の対話によって，若い世代の研究発展の基盤を構築する．

3）基礎科学の異分野間の交流を図り，cross disciplinaryな討論を通じて，新しい発展を模索する．

応募者資格：日本の研究機関に所属する研究者であること（身分，経歴，年齢等は問いません）

助成金額：総額800万円以内

募集締切：2021年2月28日（必着）

開催時期：2023年開催予定の国際学術集会

応募書類送付先及び連絡先

公益財団法人　山田科学振興財団

〒544-8666　大阪市生野区巽西1丁目8番1号

電話　06-6758-3745（代表）

http://www.yamadazaidan.jp/jigyo/bosyu_kokusai.html

紹　介

日本の山ができるまで－五億年の歴史から山の自然を読む

小泉武栄　著

エイアンドエフ，2020年1月20日発行，ISBN：978-4-909355-16-4，215頁，定価：2,400円＋税

自然地理学，地生態学の専門家である小泉武栄氏が，また新機軸の本を上梓された．小泉氏は，“日本の山はなぜこんなに美しいのか”という疑問を解くために，日本各地の山を登り続けこられた．地形や気候，植生などに注目したその成果は，多くの学術論文や普及書に著わされている．本書は，北は北海道利尻島の利尻岳から，南は鹿児島県屋久島の宮之浦岳まで，全国210以上の各山の地質と地形，気候，植生について，日本列島の形成史に沿って紹介する内容となっている．

章立ては次の通りである．第1章 日本最古の鉱物，礫，岩石．第2章 日本列島の地質の生い立ち．第3章 日本の山地，山脈の形成．第4章 大陸のかけらの岩石でできた山々．第5章 五億年前の日本列島誕生のころの地質からなる山々．第6章 五億年前～三億年前の飛騨外縁帯などからなる山々．第7章 三億年前の石灰岩と変成岩 舞鶴帯，秋吉帯，三郡帯．第8章 二億年前～一億年前の付加体がつくる山々．第9章 手取層（礫岩層）にできた山々．第10章 一億年前～六〇〇〇万年前の領家帯と濃飛流紋岩からなる山々．第11章 一億年前の付加体・四万十帯からなる山々．第12章 四万十帯と同じころの地層や貫入した岩体からなる山々．第13章 北海道の山々の生い立ち．第14章 二〇〇〇万年前の地質からなる山々．第15章 一四〇〇万年前の火成活動でできた山々．第16章 一〇〇〇万年前以降の新しい地質でできた山や海岸．第17章 六〇〇万年前から三〇〇万年前の岩からなる山々．第18章 三〇〇万年前以降に活動した火山と隆起した山並み．そして巻末には，文献リストや図表出典一覧，語句索引，取り上げた主な山名地図などが付いている．

本のタイトルと章立てだけを見ると，日本列島の地質発達史のように勘違いしそうであるが，主題は山である．日本の山々は，一つひとつがそれぞれで異なっていて，それが各山の魅力につながっている．美しい山や露頭，植物，植生の写真，わかりやすい図，そして文章は，読者を十分に楽しませてくれる．単に地形だけでなく，地質や植生，動物，気候，景観などが組み合わさり，日本の山の個性を引き出されている．日本百名山と呼ばれる所以かもしれない．評者は，それまでは何となく見ていた山の表面を覆う岩屑礫やその上の植生などについて，見ていたけれど見えていなかったものに気がつかされた．それらが認識できれば，がぜん興味関心が沸いてくる．

日本列島に暮らす人にとって，山は日常の景観の一つであり，普段の生活や信仰などでも関わりの深いものである．おそらく，どのような山であれ，山に登ったことがない人はいないであろう．ただし，「山」と一口に言っても，その姿かたちや成り立ちは千差万別である．会員諸氏にとっては当然のことであるが，一般の方は意外と知らない．山登りをしても，山頂に行くことが目的である人が多い．「なぜあなたはエベレストに登るのか？」という質問に，「そこに山（エベレスト）があるから」と答えたというイギリス人登山家ジョージ・マロリーの逸話は有名である．一方で，マロリーはある講演で「エベレストに登る目的は？」と自問し，「山頂の一個の石を欲しがる地質学者を満足させ，人間がどの高さで生きられなくなるかを生理学者に示す以外，何の役にも立たない」と話したそうである．確かに地質学者は満足するが，何も役に立たないわけでもないであろう．なぜ，そこに山があるのか？地質屋は，山がどのような岩石でできているのか，またいつ頃の年代の岩石なのか，そして，いつ山となったのかなど，山の正体を知りたいがために山に登るのである．地質学が解き明かす山の正体は，観光はもちろんのこと土地利用や自然災害対策など，多方面にわたり社会貢献に寄与するはずである．

あらためて「山」とは何かを調べてみた．一般には，周囲の土地よりも高く突出し，狭い頂をもつ凸部を山と呼んでいる．日本で最初の地形学の教科書を著した辻村太郎は，日本列島の地形を概観して，山とは谷と谷の間に挟まれた凸起部としたそうである．一方，大陸地域では海抜高度や起伏，比高，斜面の傾斜などを数値でとらえ，ある基準で山の定義を試みている．イギリスでは海抜700m以上が山で，それ以下は丘とされている．また米国では比高が300m以上で，山麓が急斜面からなり，山頂と山麓では気候や生物に違いがあるものと定義されている．このような定義の違いは，それぞれの大地の成り立ちの違いからくるものであるという．山にも土地柄，お国柄があらわれているのが興味深い．

重箱の隅をつつくようで申し訳ないが，評者が気になったところを以下に挙げる．総頁数の都合もあったとは思うが，小笠原諸島や対馬，五島列島，琉球列島などの島々の山もあるとよかった．また，40p，108pの「手取層」や63pの「手取川礫岩層」という表記は，本文中の手取層群と統一した方が良いであろう．171pの三崎層群は三浦層群三崎層の誤りである．また，スコリア層と泥岩層の互層とあるが，それらは別々に堆積したのではなく，火山砕屑物を主とするタービダイトである．その他にもあるかもしれないが，増刷の際に修正されることを望みたい．

細かな点はさておいても，内容は大変充実している．会員諸氏に一読をお薦めするとともに，是非全国のジオパークのジオガイドや山のガイドの皆さんにも推薦していただき，大いに活用していただけることを期待したい．

（**平田大二**）

会員の声

付加体学の謙虚な巨人，J. Casey Moore教授を悼む

ケイシーと呼ばれて親しまれていたカリフォルニア大学サンタクルズ校のJames Casey Moore教授が，2020年3月12日，亡くなられた．74歳だった．巨星墜つというには，あまりにも謙虚な研究者だった．モア教授（以下，ケイシーさんと呼ばさせていただく）は，1945年ロスアンジェルスで生まれ，サンタバーバラ校からプリンストン大学へ進み，学位所得後，サンタクルズ校へ移り，生涯をそこで研究教育に尽くした．世界の付加体を，DSDPのごく初期から一貫して研究し，数多くの若手研究者を育てた．この分野では，いわば巨人であったが，巨人というには似合わず，非常に謙虚で愛着のある人柄から，世界中の若手のあこがれの的であった．日本でも，ケイシーさんに薫陶を受けた研究者は数知れず，その実質的な研究とあいまって，まことに得難い「同胞」であった．謹んで哀悼の意を表したい．

ケイシーさんの研究の特徴は，海陸のフィールド観察と室内での理論，実験（土質力学的考察を含む），測定などを融合させた，総合的構造地質学であった．陸上のフィールドでは，初期のうちは，アラスカのコディアク島を選び，そこで多くの学生たちとともに調査にいそしみ，マッピングから構造解析までの研究手法を開発した．また海洋のフィールドでは，世界の海溝付加体のほとんどに足跡を印し，最近まで先頭を走り続けた一大リーダーであった．1973年に早くもDSDPのLeg 31で南海トラフと日本海に来訪し，その後も付加体学を実地の掘削研究に基づいて発展させた．直後には日本の大学で講演し，絶大な影響を与えた．ケイシーさんの初期のうちの最大の業績は，なんといっても，DSDP Leg 66でのメキシコ沖中米海溝の掘削成果に基づいて，海溝堆積物の連続的な付加として明らかにしたことである．それは海溝タービダイトの三分の一ずつが，オフスクレイピング，アンダープレイティング，およびサブダクションに割り振られるということをデータに基づいて明らかにしたことであり，まさに先駆的な概念の提案であった．その論文の載ったロンドン地質学会特別号10号は，この分野の草分け的なバイブルであり続けている．

その後，ケイシーさんは，学生や共同研究者とともに世界中の付加体を海陸から調査研究し，特にバルバドス付加体での掘削，測定の一連の研究を続け，多くの航海を成功に導いた（Leg 87A, 110, 156, 171Aなど）．これらの研究では，コディアク島での陸上研究成果を海底下の現象の対応の試みに適用し，プレート沈み込み境界で行われている引きはがし断層（いわゆるデコルマンゾーン）の構造，組織，それに浸透率の発達史的な考察を行った．また，その延長にあるロギングや音波探査実験による間隙水圧とその変化の測定を行い，デコルマンゾーンでの間欠的な透水，砂岩での選択的な透水などを3次元的に明らかにした．それには，当時発展しつつあった正確なポジショニング（GPS）とあいまった3Dサイズミックプロファイリングおよび掘削時ロギング（LWD）との融合が功を奏したと言える．それらの総合的な研究を，測定の困難な現生の付加体で実施し，付加体における脱水と変形過程の総合的に解明におけるリーダーとして携わったのは，ケイシーさんの最大の業績と言える．

ケイシーさんを知る人々での間の共通した印象は，学問的には絶えず最も根本的な概念とその適用を外さなかった見通しの素晴らしさであろう．またそのための基礎的データの重要性を追求した．陸上でも掘削事業でも，ポイントを押さえた指摘と厳しくも愛情あふれた教育的な配慮をした．ここぞというときに，最大の成果を得るための努力を基礎から自ら行った．現場の一人一人に声をかけ，学生，研究者だけでなく，関わっているすべての人々への配慮を忘れなかった．ケイシーさんの元には，アメリカだけでなく，全世界から意欲的な学生や研究者が集まった．それらの各自に見合ったテーマを与え，あるいは共同研究し，それらを完遂させる過程で，世界的な研究を次々と完成させ世に問うていった．彼がいるだけで周囲にはいい意味での緊張感があった．学生はそれを自らへの自然科学観に反映させて研究にいそしんだ．そうして育った彼らは，世界中へ散らばっていった．日本においてもしかりである．バルバドス付加体での研究が終わった後，さらに進んだ科学技術の適用を模索し，一兵卒となって南海トラフ地震発生帯計画（NanTroSEIZE）や東北地方太平洋沖地震調査掘削（JFAST）へ参加した．ほかの参加者はケイシーさんを実質的な指導者の一人と仰いだかもしれないが，自分自身は，自然への追及を志す初心者としての気持ちを単に表したに過ぎないと考えていたようだ．一仕事が終わっても，次の発展を目指した点は，ケイシーさんの自然への愛着と，それを解明しようとする姿勢を端的に表すものだろう．我々は，このような偉大な研究者と同時代を過ごせたことに，心から感謝するとともに，彼の偉大な業績を顕彰し，さらに次のステップへ進むことができれば．それが，ケイシーさんへの最大の送ることとなることだろう．

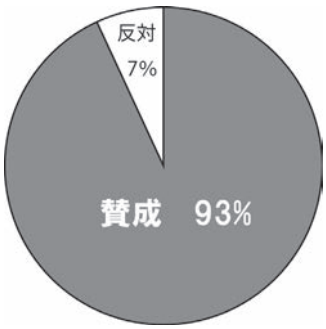
（小川勇二郎：2020年3月19日）

2011年9月9日，日本地質学会第118年学術大会（水戸大会）表彰式にて．J. Casey Moore教授は、日本地質学会国際賞を受賞され，表彰式の際に賞金を東日本大震災のために寄付すると申し出られました．

（参考）
日本地質学会国際賞受賞理由（地質学会HP掲載）
http://www.geosociety.jp/outline/content0103.html#kokusai
カリフォルニア大学サンタクルズ校の追悼ページ
https://news.ucsc.edu/2020/03/moore-in-memoriam.html

学術大会要旨電子化アンケート結果報告

日本地質学会では，本年4月4日の理事会において，今年度より学術大会講演要旨の冊子体廃止と電子化への移行を行う旨の決議がされました．それに先立ち，2月末～3月末の間，会員の皆様に回答頂いた学術大会要旨の冊子体廃止と電子化についてのアンケート結果を，ここで紹介いたします．短い期間にも関わらず100件を超える返信があり，賛成・反対を含め貴重なご意見を頂きましたこと，感謝申し上げます．



集計結果

賛成：93%（116人）
反対：7%（9人）

ご意見の中で，要旨電子化に対する懸念事項として特に多かったのが，これまで使用していたJ-Stageへのアップロードがなくなる点です．旧システム時の要旨は今後も引き続きJ-Stage上で閲覧できますが，新システムではConfit提供のサーバー上での閲覧となります．ネット上ではどちらも同様に検索可能ですので，当面の間は問題はございませんが，サーバー上の情報が今後も提供され続ける保証もありません．学会としては，今後も継続的に過去の要旨提供が可能な方策を講じ続けていきます．さらに皆様のご意見を，学会の持続可能な発展と会員利便性の向上のために役立てて参りますので，引き続きよろしくお願い申し上げます．

お寄せ頂いたご意見

・電子化自体は賛成だが，J-Stage登録の維持は何とかならないものでしょうか．このデメリットはきわめて大きいと思います．
・電子化してもJ-STAGEに紐付け出来る様にはならないのですか？
・JpGUみたいなアプリ希望
・会場で今聞いている講演の要旨を見ることができればありがたいです．学会会場のwifi環境をどうするかが鍵で，大学のインフラとは別にwifi環境を構築できればなんとかなるのでは．会場に来る前にダウンロードしておけという解決策もありですが．
・簡単になる分には良いのでは．気軽に投稿できる方が投稿者も増えるのでは．
・電子化した場合の情報が少なすぎて，賛成か反対か判断しかねる．例）要旨は永年閲覧可能なのか．会期前とは何日前から閲覧可能なのか．会場（大学）のネット環境は十分なのか（特にwifi）．電子化をしなかった場合，どの程度大会登録費は上がるのか．など
・J-Stageへのアップロードの代わりに学会HPでpdfを公開したら良い．
・今の時代に合ったやり方であると思います．電子化した場合に探したい要旨にすぐ飛べるなど，扱いやすさもあると好ましいと思います．
・J-Stageへの登録が出来れば，なお良いと思います．
・PCの故障の場合の閲覧はどうなりますか．自分以外のものが閲覧できますか．
・パソコンやタブレットでの閲覧が多いと思うので，学会場で電源コードを多く配置するなど，充電できる環境を整備してほしいです．地球化学会では電子化がはじまっていますが，会場で電源探している方が多くいました．
・Google scholarなどでの検索にはヒットできるよう対応してほしい
・非会員参加者が閲覧できるようにする工夫が必要．当面は現形式でのプログラムの配布も必要と思われる．
・当然ながら，大会前に掲載してもらいたい．
・ご検討お疲れ様です．お礼申し上げます．J-Stageから切り離すということですので，要旨のアーカイビングは担保されるのかが心配です．
・論文集の方も電子化を希望します．
・紙の方がパラパラとめくって要旨を眺めることができ便利
・会場でWebにアクセスできない方への配慮をお願いします
・電子化に基本賛成ですが，大会会場での，Wi-Fi接続環境の充実，パソコン・タブレット等の充電コンセントの十分な確保，紙を必要とする人のためのプリントアウトサービス，など，きめ細やかな対応が必要かと思います．
・WEB上で継続して検索できるようにしてほしい．検索は無料に．
・大きく賛成です．なるべく学会事務の仕事量軽減につながる効率化策を希望します．
・J-STAGEにアップロードできないのであれば，HP上などで過去の大会の要旨を参照することは可能でしょうか．それができるようでしたら全面的に賛成いたします．他の学会業務（役員選挙など）も順次電子化できるとよいと思います．
・webにつながないと講演要旨をみることができないのであれば，事前に全ページダウンロードしていく必要があるかと思います．一括ダウンロード（セッション毎ではなく）ができるといいです．また，事前ダウンロードを忘れた人のために，会場はweb接続可能な場所が必須になると思います．このような，事前・会期中のサポートがあれば，電子化をするのはよいことだと思います．ネット接続が難しい会員はネットカフェなどでもダウンロード可能なのでしょうか？
・講演要旨の検索システムの操作性に関する情報の不足．スマホアプリへの対応．学術大会会場内でWiFiの環境の整備．など，利便性に関する懸念事項が払拭されれば，賛成したいと思います．
・少数でしょうが，Web環境のない会員への配慮，対応策を検討願います．
・一般会員・行事イン・世話人いずれにとっても，メリットがデメリットを上回ると思うため，学術大会要旨集の電子化に賛成致します．
・JpGUのように検索できると非常に助かります．冊子形態だと手荷物が多くなり，混雑するセッションだと邪魔になってしまう印象です．
・年大会に参加する事は　有料で要旨集を購入して情報を得る意味があります．年大会参加費には紙媒体要旨集も含まれています．もし参加費にWeb媒体要旨に含む場合は，参加者の利益が損なわれないように，一定期間アクセス制限が必要かと思います．
・要旨集デジタルファイルを学会ウェブサイトからダウンロードできるようにしてください（セッション別のファイル）．USBやCDで配布するのもよいかと思います．
・①デメリットに「Webに繋がないと要旨の確認ができな

い」とのことですが，今まで以上に多くのPCやWiFiを使うことになると思います．今後学術大会開催の各会場で，要旨閲覧のPC・WEB使用環境に問題が生じることはありませんか？

②当日参加登録者への要旨提供サービスはどのように行うのですか？ PC持参を条件にするのですか？

③「Confit演題登録システムは次年度から値上げされますが，全システム利用＋冊子体印刷廃止で，支出を同額に維持できます.」とありますが，値上げ前の今年度が支出を同額に維持できるのですか？では，次年度値上げしたら支出が増えるのですか？さらに将来値上げがあった場合支出はさらに増えるのですか？一方，印刷費は会員数減少に伴い今後わずかに減少していくと思われますので，Confit演題登録システム導入による支出差はさらに増えると考えてもよいですか？

④「プログラム編成作業が大幅に効率化される」とありますが，効率化された結果，費用の減少金額はどの程度になりますか？

・要旨の電子化には賛成ですが，会場移動等で必要になるので，時間割と会場とセッション内容だけ書いたものを紙で配布していただけると助かります．JpGuでは，そういったものを無料配布していたと思います．
・ボランティアベースではいずれ破たんする．学会HPから永続的に見られるのであれば，J-Stageである必要はない．
・JpGUのようにスマートフォンのアプリで確認できるようになると便利でありがたい
・省資源で効率的ですが，J-STAGEにアップロードできると尚よいと存じます．
・この時代，電子化は不可避です．
・他の学会でも学会誌の電子化が進んでいるが，アンケートに答える機会がなく決められると不快である．印刷経費が削減できた分を年会費の割引に繋がればよいと思いう．
・所属している他学会では，日本地球化学会がシンプルに要旨集電子化をされています．
・配布しているのは目次・セッションごとの要旨集・日ごとの要旨集・全体を1ファイルにまとめたもので，個人の欲しい形に応じてダウンロードできるようになっています．
・他学会の形を参考に利便性の高い実装をしていただけると幸いです
・プログラム編成作業や要旨集編集作業の軽減がなによりも重要と思いますので賛成です．
・ファイル形式は継続して検討してください．
・聴講したい講演に際し出力，持参するため，遅くとも，大会の1週間前位にはアップして貰いたい．
・ほかの学会でもやっているように，web閲覧の他，CDRでの配布も希望します．
・行事委員は大変であると思うが要旨集は冊子版があってほしい．でないと自分の記憶にも記録にも残らない．J-stageで要旨を検索できるのも続けてほしい．学会参加
・所属支部が勝手に決められてしまうのはやめた方がいい
・要旨集CDを作って配るなどの付加的方策を考えてはどうか．
・番号がきちんと振られて，参照できるようになっていれば冊子版を廃止しても構わない．役員の負担軽減を重視して，要旨集電子化に賛成します．
・現在，産総研地質調査総合センターの図書を管理しております．これまで日本の地質学の文献を収集してきた一環として，地質学会の講演要旨集も配架させていただいておりました．今後も．産総研地質調査総合センターで収集・閲覧できる状況にしておきたいと考えています．電子化された場合，ファイルをいただき，Cdに焼くなどして産総研地質調査総合センターの図書に配架させていただきたい．

院生コーナー

第９回ハットンシンポジウム 花崗岩の花崗岩による花崗岩のための 国際花崗岩会議

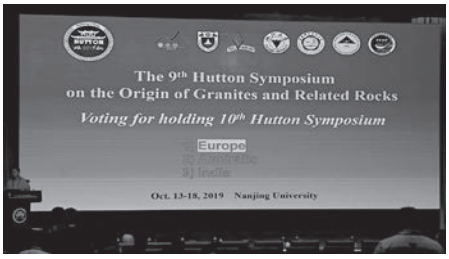
愛媛大学理工学研究科地球進化学コース
修士課程１年
下岡和也

はじめに

The 9th Hutton Symposium on the Origin of Granites and Related Rocksが2019年10月13～18日にかけて中国の南京大学において開催され，中日の一日巡検を含めた5日間の討論会と，その前後の野外巡検がおこなわれた．このシンポジウムは花崗岩類の成因に火成論を明確に打ち出したJames Hutton（1726-1797）の著書“Theory of the Earth”完成200年を記念して1987年から4年おきに開催されている，いわば“花崗岩のオリンピック”である（石原，2000）．今回のシンポジウムでは，世界の花崗岩研究者約300人が一堂に会し，花崗岩類と大陸の進化，深部地殻での花崗岩質マグマの生成過程，花崗岩質マグマにともなう鉱床形成，巨大花崗岩質岩体と珪長質火山コンプレックスの4つのテーマで議論を行った．日本からは御子柴真澄博士（産総研），壷井基裕教授・清水和冬氏・古賀一恕氏（関西学院大学），板野敬太博士（金沢大学），斉藤哲博士・下岡和也（愛媛大学）の7名が参加した（写真1）．今回は筆者が参加した事前巡検と討論会の様子について報告する．

事前巡検

『浙江省における後期白亜紀珪長質火成活動』と銘打たれたこの巡検では，中国浙江省にて白亜紀火成活動の産物である深成岩－火山岩の様々な産状の観察が行われた．中国からの参加者24名、日本から2名、南アフリカのストレンボシュ大学から1名の参加があり，浙江大学のコン-ヤン氏，ジャン氏の案内のもと，その大部分が中国語で行われた．天を覆うほどの巨大な露頭の数々に圧倒されつつ，Aタイプ花崗岩，苦鉄質岩とIタイプ花崗岩類の相互作用を示す産状，溶結凝灰岩などの白亜紀火成活動の産物を観察した．例えば，写真2は霊巌山風景区でみられる角礫を含む溶結凝灰岩-縞状の流紋岩の露頭である．多くの山が国定公園になっているため，岩石採集の自由度は高くない．しか



（写真左から）写真1シンポジウム看板前での集合写真．写真2霊厳山風景区でみられる露頭．下部は角礫を含む溶結凝灰岩，上部は縞状の流紋岩．写真３10th Hutton Symposium 開催予定地投票 開票結果

し，これらの岩石と同時代の領家帯の花崗岩類を研究している筆者にとっては，この白亜紀の火成活動が如何に巨大なものか，一体どのようなプロセスで形成されたのかを深成岩-火山岩の両者から深く投げかけられる素晴らしい露頭の数々であった．巡検の後半は観光のテイストが加えられ，仏閣めぐりの旅となった．興味も教養もない筆者には苦行となるかと思いきや，黒御影・トラバーチン・緑色岩など様々な岩石タイルで装飾が施された広場の床材や小さな晶洞がそこここに確認できる花崗岩の壁材には目を丸くした．地質屋が身を丸めて床材や壁材を観察し，一般人がその姿を怪しげに眺めるのは言語や思想，宗教の枠を超えて世界共通なのである．この巡検の懇親会では，『白酒』と呼ばれるアルコール度数68%を超える伝統の酒が振舞われ，道中の食事は，参加者で円卓を囲み，想像を絶するほどの量の料理に舌鼓を打つ，まさに飽食の国，中国らしいものであった．

講演

基調講演として計22件の口頭発表が行われた。微量元素による花崗岩類の分類を提唱したJulian A. Pearceをはじめとした花崗岩研究のレジェンドや，花崗岩類と火山岩類研究の最前線を担う研究者の発表が行われた．1日目は『花崗岩類と大陸の進化』をテーマに講演が行われた．大陸の成長はContinuousなのかEpisodicなのか，大陸の形成とリサイクルについてといった地球形成論の根幹に近づく問題について，変成岩中の変成鉱物に基づくシュードセクション法や花崗岩中のジルコンにHf同位体組成分析を利用し，解明するような研究が紹介されていた．2日目は『深部地殻での花崗岩質マグマの生成過程』をテーマに巨大火成岩体での珪質質マグマの活動や，花崗岩中に含まれる流体包有物やナノグラニットから得られる花崗岩類の形成条件の制約など，様々なスケールでの議論が行われた．中日巡検を挟んだ4日目は『花崗岩質マグマにともなう鉱床形成』をテーマに講演が行われた．花崗岩質マグマの進化の最終期に熱水系でどのような元素移動が行われるのか，野外産状で火山シーケンスが確認される地域での岩石学的研究により深成岩体の形成から続く火山活動のマグマ過程を示した研究について議論がなされた．最終日は『巨大花崗岩質岩体と珪長質火山コンプレックス』として斑状花崗岩にみられるカリ長石巨晶の形成メカニズム，花崗岩質マグマの形成時から冷却時にかけて保持している熱量などについて議論が行われた．また，2日目の終わりには学生をはじめとした若手研究者が自身のポスター発表の内容を5分間で講演する『Young Research Forum』が行われ，15名が自身の研究の魅力や強みを熱弁した．筆者はこれらのすべての講演の中でもGualda氏が講演されていたカリ長石巨晶の研究手法に感銘を得た．その手法とは，カリ長石巨晶の分布やサイズ等の情報を記録するために，氷河で削られた平面露頭に1畳ほどのプラスチックフィルムを敷き，すべてのカリ長石をマークしていくというもの．「気が遠くなるほどの時間を要した」と講演の中で述べられていたが，その膨大なデータから丁寧なモデリングがなされており，Gualda氏の研究に対する真摯さや熱意に大変刺激を受けた．

ポスターセッション

講演会会場横のホールで100件のポスターセッションが行われた．A・Bの2グループでそれぞれ2日ずつのポスター掲示日が設けられた．その中でも，太古代をはじめとした古い花崗岩類の研究発表が人気を博し，特にジルコンHf同位体組成のデータを示した火成活動の検討を行ったポスターは，多くの参加者の目を引いた．このポスターセッションが筆者の初の国際学会発表であり，愛媛県高輪半島をベースとした後期白亜紀領家帯花崗岩類の火成活動についての発表を行った．日本では行っていないような研究手法の提案や内容に関する深い議論をしていただき，今後の研究活動を行う上での大きな刺激を受けた．

バンケット

講演会1日目終了後に行われた．「塩水鴨」と呼ばれるアヒルを使った南京地方の伝統料理や小籠包，豚の角煮などの中国の人気料理を食した．中国，イタリア，日本の大学院生や研究者と卓を共にし，各研究分野の立ち入った話や大学のシステムなどの話に花を咲かせた．しかし，摂取するスピードを明らかに考慮していない給仕に卓上はすぐにいっぱいとなり途中からは研究の話もそこそこに料理ばかりを口にした．ここでも『白酒』がふるまわれたようだが，よく覚えていない．

おわりに

シンポジウムの終わりに次回の開催地を決定するための投票が行われた．インド・ヨーロッパ・オーストラリアの3つの国と地域が候補地として名乗りを挙げ，それぞれがプレゼンテーションを行った．要約するとそれぞれ，「たくさん露頭があります」「景色がきれいです」「国が広いです」とのこと．特に過去2回連続投票で敗北をしているインドは，10th Hutton Symposiumの開催に関して大変意欲的で，シンポジウム期間中隙あらば会場の隅で根回しを行っていた．しかし，「景色がきれいです」の謳い文句には勝てなかったのか，次回2023年の開催は，圧倒的大差でヨーロッパ（Locarno地方）に決定した（写真3）．次回のシンポジウムでは一体どのような研究・分析手法が主流になっているのであろうか．

引用文献

石原舜三，2000．月刊地球号外，30，5-11.

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名で行っています．原稿は5000字以内，図・写真３点以内を目安に，e- mailでいただければ幸いです．

manto.yamada@gmail.com　山田眞嵩（北大）
716o.nonn@gmail.com　大山　望（九州大）
a.sakuma@eps.s.u-tokyo.ac.jp　佐久間杏樹（東京大学）
dkuwano@chiba-u.jp　桑野太輔（千葉大学）

☆関東支部

お知らせ

2020年度関東支部総会開催（書面会議）のお知らせ

2020年4月11日に開催を予定していた2020年度関東支部総会について，新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から，書面会議（以下，書面総会）によって開催します．

書面総会に参加される方は，下記に従い，議決権行使書または委任状の提出をお願いします．議決権行使書または委任状の提出をもって書面総会に参加したものとみなします．なお本来は総会参加者の中から議長を互選しますが，書面総会では関東支部幹事会により予め松浦一樹会員を議長候補として推薦し，議決権行使書によって信任投票を行います．

※議長の職責

1. 定足数確認（議決権行使書および委任状の総数が関東支部会員総数の20分の1以上）
2. 各議案承認の可否確認（各議案過半数の賛成で承認）
3. 議事録への署名（議事録は支部HPやニュース誌に公開）

書面総会開催方法

1. 議案書などの公表（ニュース誌4月号，支部HPへの掲載：4月末頃）．審議に必要な2つのファイルをダウンロードできるようになります．
2. グーグルフォームでの議決権行使書と委任状の記入提出（**締切日：5月23日**）．議決権行使書または委任状どちらか一人1回のみ有効です．
3. 議長および議長の指名する者により議決権行使書および委任状の集計をおこない，過半数の賛成により各議案を承認します（5月23日～5月末）．
4. 書面総会議事録の掲載（閉会宣言）：（ニュース誌6月号，HPへの掲載：5月末）

※支部HPが見られない環境で書面総会に出席されたい会員には個別に対応します．至急，ご住所とご氏名をご連絡ください．郵送します．

また，審議事項に関する質問は個別に対応しますので，ご連絡ください．

（お問い合わせ先）
関東支部幹事長　笠間友博
箱根町立箱根ジオミュージアム　250-0631　箱根町仙石原1251
電話 0460-83-8140　FAX 0460-84-9565
E-mail geo-museum@town.hakone.kanagawa.jp
（週4日程度出勤のため，お急ぎの場合は携帯090-9952-8363にお願いします）

一般社団法人日本地質学会　関東支部 2020年定例総会議案書

1. 2019年度活動の報告と総括

（1）報告

1）巡検関係

・筑波山地域ジオパーク巡検2019年10月20日（日），講師：筑波大学　久田健一郎，杉原　薫（敬称略，以下同じ），マイクロバス使用，参加者20人
・神津島巡検2019年11月30日（土）～12月1日（日），共催：首都大火山災害研究センター，講師：小林　淳（静岡県富士山世界遺産センター）・村田昌則（首都大学東京火山災害研究センター）・鈴木毅彦（同）・西澤文勝（神奈川県立生命の星・地球博物館），参加者14人（ジオガイド2人）
・（中止）アウトリーチ巡検「チバニアン」2019年11月24日（日）台風19号災害のため延期→2020年3月22日（日）コロナ感染防止のため中止，講師：岡田　誠（茨城大学教授）
・（中止）大磯丘陵火山灰巡検2020年2月16日（日）雨天のため中止，平塚市土屋地区，講師：笠間友博（箱根ジオミュージアム）

2）シンポジウムなど

・シンポジウム「関東のテフラ－最近の年代観と供給源－」2020年1月25日（土），北区北とぴあ，講師（講演順）：小林淳（静岡県富士山世界遺産センター），笠間友博（箱根ジオミュージアム），中里裕臣（農研機構），中澤　努（産総研），田村糸子（首都大学東京），水野清秀（産総研），鈴木毅彦（首都大学東京），参加者131人，協賛：（株）ダイヤコンサルタント，（株）地圏総合コンサルタント，（株）地盤試験所
・地質技術伝承会「石油地質分野におけるunconventionalあるいは非石油的な話」，講師：石油資源開発株式会社　横井悟　技術本部フェロー，協力：（一社）東京都地質調査業協会，参加者43人
・共催シンポジウム（主催：筑波山地域ジオパーク推進協議会）「研究の最前線：中期更新世以降の関東平野北東部の地質と地形発達」，10月19日（土），つくば市役所コミュニティー棟第一会議室，参加者85名

3）フィールドキャンプ

2019年8月19日（月）～24日（土）千葉県鴨川市東大千葉演習林，京大との共同実施，協力：石油資源開発株式会社，株式会社ダイヤコンサルタント，参加学生2人，修了後2名入会．

4）サイエンスカフェ「マンネン×シバハラ×立体地図（ブラマンネン2）」

2019年6月9日（日）15-17時（14時半開場）
Bar de 南極料理人 Mirai　関内駅（JR根岸線・横浜市営地下鉄），参加27人，ゲストスピーカー：萬年一剛氏（神奈川県温泉地学研究所）・芝原暁彦氏（地球科学可視化技術研究所）・ファシリテータ：岡山悠子（科博SCA）

5）総会　2019年4月13日（土）北区赤羽会館，出席者33名＋委任状71名で成立

活動・会計報告，活動計画・予算案　承認された

6）支部功労賞2件：東京大学千葉演習林，相模原市立博物館

7）幹事会（月1回程度の間隔で実施　4月13日，5月21日，6月19日，7月24日，9月3日，10月18日，11月12日，12月11日，1月23日，2月・3月はコロナウイルス感染拡大防止のため中止．

8）組織

関東支部会員数（2020年4月1日現在）1449名（名誉会員17，正会員1432（うち（院生割引）会員16，（学部割引）会員1）
地質学会全体の2019年度末会員数3446名，年度末退会除籍者数153名

（2）総括

1）テフラシンポジウムは過去最大の参加者があった．このように会員サービスにこたえられるような行事を今後も行っていきたい．
2）フィールドキャンプで今年度も引き続き若手会員の入会があった．
3）2021大会に向けて巡検の大枠を決めた．

2. 決算報告

表1参照

3. 2020年度の活動方針

(1) 2021年早稲田大会への準備
(2) 学術的成果の社会への還元
(3) 会員サービスの充実
(4) 若手会員の拡大
(5) 予定行事（日程はコロナウイルス感染症が収拾後に決定）
・房総半島上総層群巡検
・アウチリーチ巡検（春日部周辺）
・サイエンスカフェ
・シンポジウム（テーマ未定）
・大磯丘陵テフラ巡検（2019年中止になったもの）
・地質技術伝承会（2020年4月の延期開催を予定）
※フィールドキャンプはコロナウイルス感染の影響により中止

4. 予算報告

表1参照

表1　決算および予算

〈2019年実績〉

科目	収入	支出
支部管理費	0	82,084
地質伝承会	0	70,422
筑波巡検	160,000	159,775
神津島巡検	280,000	319,982
清澄FC	120,000	164,476
テフラシンポ	174,500	171,960
サイエンスカフェ	52,000	57,342
中止行事準備	0	12,410
合計	786,500	1,038,451
本部既払（講師税金ほか）		-8,864
マイナス計上分		243,087

〈2020年予算〉

科目	収入	支出
支部管理費	0	120,000
地質伝承会	0	40,274
上総層群巡検	255,000	253,520
アウトリーチ巡検	60,000	59,937
大磯丘陵巡検	20,000	4,000
シンポジウム	130,000	120,000
サイエンスカフェ	40,000	72,274
合計	505,000	670,005
マイナス計上分		165,005

2020年度，2021年度 関東支部幹事選挙結果

日本地質学会関東支部選挙管理委員会 委員長　伊藤 谷生
委員　青野 道夫，入野 寛彦

2020年3月1日（日）～3月11日（水）の立候補期間に幹事候補者が定数の20名を越えなかったため，日本地質学会関東支部細則第1条6にしたがい，無投票で下記の全候補者が新幹事として決定しました．

荒井 良祐（川崎地質株式会社），小田原 啓（神奈川県温泉地学研究所），笠間 友博（箱根ジオミュージアム），加藤 潔（駒澤大学 総合教育研究部），金丸 龍夫（日本大学文理学部地球科学科），木村 克己（公益財団法人 深田地質研究所），小松原 純子（国立研究開発法人 産業技術総合研究所），澤田 大毅（石油資源開発株式会社），下釜 耕太（株式会社ダイヤコンサルタント），棚瀬 充史（株式会社地圏総合コンサルタント），田村 糸子（中央大学 経済学部），冨田 一夫（日鉄鉱コンサルタント株式会社），廣谷 志穂（アジア航測株式会社），方違 重治（国土防災技術株式会社），細根 清治，細矢 卓志（中央開発株式会社），本田 尚正（東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科），向山 栄（国際航業株式会社），山本 伸次（横浜国立大学大学院 環境情報研究院），米澤 正弘（渋谷教育学園幕張中学校・高等学校）

以上20名（あいうえお順）

2019 年度の支部功労賞について

日本地質学会関東支部長　山崎晴雄

日本地質学会関東支部では，支部の顕彰制度に基づき支部活動や地質学を通して社会貢献された個人・団体を関東支部として顕彰しています．2019年度は2件の推薦があり，受賞が認められました（選考委員長　有馬　眞）．本来ならば支部総会での報告になりますが，総会延期を受け，ここに報告します．

・相模原市立博物館：地域地質の紹介だけではなく，市民との協働体制の充実，隣接するJAXAとの連携による惑星地質学普及への取り組みが評価されました．
・東京大学千葉演習林：関東における地質図学実習の拠点施設としての重要性とともに，関東支部が夏季に行っているフィールドキャンプへの惜しみない協力体制が評価されました．

（あいうえお順）

お知らせ

開催中止となった西日本支部令和元年度総会・第171回例会（2020年2月29日開催予定）の講演は，みなし講演として学会HP上で講演要旨を公開致しました．
http://www.geosociety.jp/outline/content0025.html

CALENDAR

2020.4〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2020年

4月　April

☆関東支部：2020年度総会・地質技術伝承講演会［書面会議］［延期］
~~4月11日（土）14:00〜16:45~~
~~場所：北とぴあ第2研修室（東京都北区王子1-11-1）~~
~~地質技術伝承講演会「ボーリング技術，最近の動向」~~
http://www.geosociety.jp/outline/content0201.html

○第233回地質汚染・災害イブニングセミナー［中止］
~~4月24日（金）18:30〜20:30~~
http://www.npo-geopol.or.jp/event.htm

○第19回重金属類・残土石処分地・廃棄物処分地診断に関わる地質汚染調査浄化技術研修会［中止］
~~4月29日（水・祝）〜5月2日（土）（部分受講可）~~
主催：NPO法人 日本地質汚染審査機構
http://www.npo-geopol.or.jp/sympo.htm

6月　June

○地質学史懇話会
6月20日（土）13:30〜17:00
場所：北とぴあ805会議室（東京都北区王子）
矢島道子：『地質学者ナウマン伝』を上梓して
加藤碩一：日本列島成立史あれこれ

7月　July

（後）第57回アイソトープ・放射線研究発表会［中止］
~~7月7日（火）〜9日（木）~~
https://www.jrias.or.jp/

○JpGU2020年大会［オンライン開催］
7月12（日）〜16日（木）
※日程が7月に変更になりました．
http://www.jpgu.org/meeting_j2020/

8月　August

（後）科学教育研究協議会第68回全国大会（福島大会）［延期］
~~8月1日（土）〜3日（月）~~
場所：伊達市立霊山中学校（福島県伊達市）
https://kakyokyo.org/

○国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2020年総会及び第17回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム
8月30日（日）〜9月７日（月）
開催場所：ノボシビルスク（ロシア）
www.gondwanainst.org/

9月　September

○ 第19回国際物質組織学会議（ICOTOM19）［延期］
~~9月6日（日）〜11日（金）~~
2021年2月28日（日）〜 3月4日（木）
場所：大阪府立大学
http://icotom19.com/

★日本地質学会第127年学術大会
9月9日（水）〜11日（金）
会場：名古屋大学東山キャンパス

○日本鉱物科学会2020年年会・総会
9月16日（水）〜18日(金)
会場：東北大学青葉キャンパス
http://jams.la.coocan.jp/index.html

○第37回歴史地震研究会（伊賀大会）
9月26日（土）〜29日（火）
会場：ハイトピア伊賀（三重県伊賀市）
http://www.histeq.jp/index.html

10月　October

○日本火山学会2020年度秋季大会
10月8日（木）〜10日(土)
会場：名古屋大学
http://www.kazan.or.jp/J/index.html

注意：新型コロナウィルス感染拡大の影響により，行事中止の可能性もあります．実際の行事開催の有無については事前に各主催者，問い合わせ先にご確認ください．

訃　報

本会の次の方々が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

名誉会員　柴田　賢（2月28日）
大八木規夫（2月27日）
石原舜三（3月2日）
諏訪兼位（3月15日）

訃報の取り扱いについて

会員等の訃報に際しての周知方法を見直し、下記の通りとしました（広報委員会）．

1）正・副会長経験者、現役の理事および名誉会員が逝去された場合はgeo-flash臨時号を発行し，会員各位に周知する．また地質学会賞、国際賞受賞者についてもgeo-flash定期号にて周知する．
2）その他の会員の場合については適時各部会・支部のメーリングリストを活用し，会員各位に周知する

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください．
入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．また，初年度の会費は申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください．会員としての正式登録は，入会承認後，初年度会費の入金を確認した上で行い，雑誌の送付（4月号から）を開始いたします．

申込書送付先：101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　一般社団法人日本地質学会
送金先：郵便振替口座　00140-8-28067　一般社団法人日本地質学会
ゆうちょ銀行　〇一九（ゼロイチキュウ）店／当座 0028067 ／一般社団法人日本地質学会 ｼﾔ)ﾆﾎﾝﾁｼﾂｶﾞｯｶｲ
会費（※1）年額：正会員 12,000円　（学部学生割引＊5,000円，院生割引＊8,000円【定収のない方に限る】 ※2）
※1：学会費には地質学雑誌の購読料が含まれています．
※2：学部学生割引，院生割引を希望される方は，下記の割引申請欄に指導教員の署名，捺印をもらってください．

一般社団法人日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください（＊Official use only）

＊会員番号	＊会員種別　☐ 正会員　（☐ 学部学生割引　・　☐ 院生割引）
氏名（ふりがな）　Name in Japanese	ローマ字表記　family name　／　first name
_____年Year_____月Mo_____日Day　生born on	Sex：☐ 男 Male　☐ 女 Female　Country：

学歴 Academic career：
_____学校 High school_____年卒業 Year completed
_____大学 University _____学部 Faculty _____年_____月 卒業（見込み）Year completed
修士 Master：_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了（見込み）Year completed
博士 Doctor：_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了（見込み）Year completed

自宅住所 Home address：(郵便番号 Zip code　　-　　)

電話 Phone：　　ファックス Fax：

所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address：(郵便番号 Zip code　　-　　)
※ 郵便物がきちんと届けられるよう，ご記入ください．

電話 Phone：　　ファックス Fax：

e-mail Address：　　@
※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用，その他連絡用に登録します．携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません．ご注意ください．
※所属先（代表）の問い合わせ専用　e-mail Address　は記入しないでください．

連絡先 Correspondence：　☐ 自宅　Home　　☐ 所属機関　Office

会員名簿の掲載項目：2年に1度，会員名簿を発行しています．氏名・所属先は掲載必須項目です．下記の項目について**掲載を拒否する項目には☐ にチェックを付けてください（チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします）．**

☐ 最終学歴　☐ 所属先学科名・部課名（掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」，「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載）
☐ 所属先住所　☐所属先電話・FAX番号　☐自宅住所　☐自宅電話・FAX番号　☐e-mail Address

紹介者名（正・院生会員）　　印
Recommended by (name of member) _____ Signature

学部学生割引・院生割引申請欄：運営規則に基づき，学会費の割引申請をいたします．

上記本学の学生につき，　☐ **学部学生**　・　☐ **定収のない院生（研究生）**　〔いずれかにチェックをつけてください〕
であることを証明いたします．

指導教員　所属：　　氏名：　　印

専門部会：現在，下記の15の専門部会があり活動しています．専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします．所属希望の部会を3つまで選択することができます．（該当する項目に〇印を付けて下さい）

1. 地域地質　2. 層序　3. 堆積地質　4. 現行地質過程　5. 海洋地質　6. 構造地質　7. 岩石　8. 火山　9. 応用地質
10. 環境地質　11. 情報地質　12. 古生物　13. 第四紀地質　14. 環境変動史　15. 鉱物資源

興味専門分野：あなたの興味専門分野を教えてください．3つまで選択することができます．（該当する項目に〇印を付けて下さい）

1. 層位　2. 堆積・堆積岩　3. 古生物　4. 構造地質　5. 火山・火山岩　6. 深成岩　7. 変成岩　8. 鉱床地質（金属・非金属）
9. 鉱床　10. 鉱物　11. 燃料地質　12. 地熱　13. 第四紀　14. 環境地質　15. 都市地質　16. 土木地質　17. 土質工学
18. 水文地質　19. 探査地質　20. 土木工学　21. 情報地質　22. 地震地質　23. 海洋地質　24. 地球物理　25. 地球化学
26. 地質年代学　27. 地理　28. 地学教育　29. 考古学　30. その他　40. 地球惑星

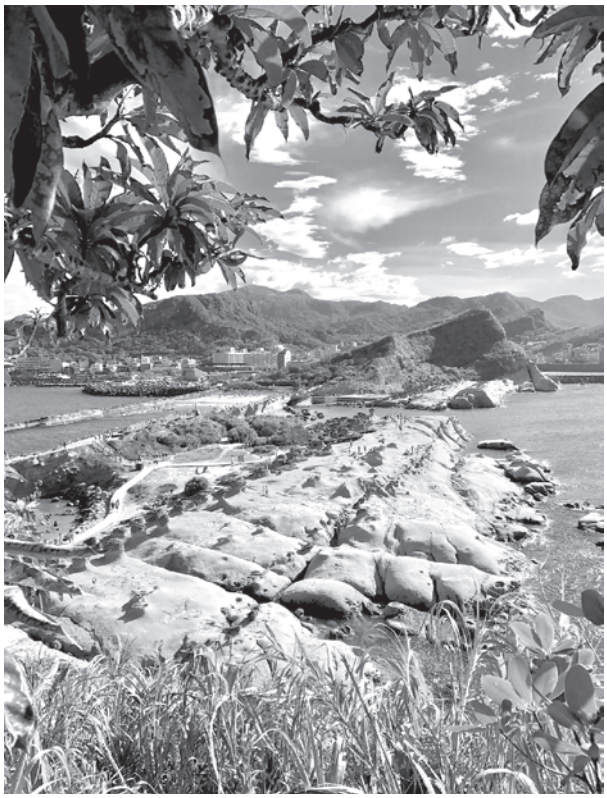
＊受付（　　年　　月　　日）	＊入金（　　年　　月　　日）　振替・現金・銀行・他
＊承認（　　年　　月　　日）	＊送本（　　巻　　号）

日本地質学会会長賞：迷子石
撮影者：川又基人（東京都）

撮影場所：南極　東南極パッダ島（昭和基地から南西 80km）
審査委員長講評：南極は氷河に覆われた大陸ですが，この作品のように岩石が露出している場所もあります．現在では南極も観光で行くこともできますが，行けるのはごく一部．この作品のような場所は，研究者だけが近づくことを許された場所です．赤茶色の大地と迷子石，白く眩い氷床，青空とすっきりした画面構成で魅力的な作品になっています．

ジオ鉄賞：滝上を走る列車
撮影者：細谷正夫（茨城県）

撮影場所：栃木県那須烏山市　龍門の滝　JR 烏山線（滝－烏山間）
ジオ鉄普及委員会講評：栃木県高根沢町と那須烏山市を結ぶ JR 烏山線（愛称「からせん」）．その名も滝駅の近くに「龍門の滝」はあります．那珂川支流の江川にかかる高さ 12 mの滝で，写真は凝灰岩と凝灰角礫岩の互層からなる急崖露頭の陰影を効果的に写り込ませ，列車との高度差をうまく捉えています．駆け抜ける列車は 2 両編成の蓄電池駆動電車「ACCUM（アキュム）」です．烏山線は那珂川流域の大地を学ぶ「那須烏山ジオパーク構想」エリアにあり，沿線の見どころが豊富な路線．地図を片手に「からせん」のジオポイント探索に出掛けたくなりました．（深田研ジオ鉄普及委員会 藤田勝代）



スマホ賞：風が作った作品
撮影者：加藤聡一郎（愛知県）

撮影場所：台湾　野柳公園
審査委員長講評：台湾北部の野柳地質公園を撮影した作品です．本コンテストでも過去に何点もの応募がありますが，いずれもキノコ岩をクローズアップしたものでした．本作品では，それらとは異なりやや遠くから撮影もので，地質構造や公園のようすがよくわかります．手前の樹木や草を整理して撮影すれば，すっきりした作品になったと思います．

入選：混成の美
撮影者：辻森　樹（宮城県）

撮影場所：ロシア　カレリア共和国
審査委員長講評：よく調査されている，あるいは話題となっている地層や岩体を案内人が解説してくれるのが巡検で，地質を深く理解するのに役立ちます．特に海外の巡検では，1 人では簡単に行けない場所まで案内してくれることもあるので助かります．巡検では限られた時間で撮影しなければなりませんが，辻森さんはそのチャンスを見事にものにされました．

入選：活火山ある暮らし
撮影者：迫　勇（鹿児島県）

撮影場所：鹿児島県垂水市　海潟の高台

審査委員長講評：桜島は，2010 年～ 2015 年は南岳昭和火口からの噴火が盛んでしたが，現在は南岳山頂からの噴火が続いています．何日も通っても運が良くなければこのような噴火には出会いません．この撮影地点からは望遠レンズで噴火のみを捉えがちですが，作者は噴火とともにそこに住む人々の暮らしを写し込む着眼点が良かった．

入選：Chocolate Box
撮影者：長谷川祐二（長崎県）

撮影場所：長崎県佐世保市　白浜海岸

審査委員長講評：九十九島（くじゅうくしま）は西海国立公園にある多島海で，作者はチョコレートボックスのような地層の形に注目しました．３点の組写真で応募されましたが，似たような構図なので１点のみの応募にすべきでした．レンズを絞り込んで，被写界深度を広くしたほうが良かったかもしれません．

入選（中高校生）：ゴジラの爪
撮影者：田邊はるか（大阪府）

撮影場所：高知県　室戸岬先端　灌頂ケ浜（室戸ジオパーク）

審査委員長講評：室戸はユネスコ世界ジオパークにも指定され，展示やジオツアーなども充実しており，日本列島の成り立ちを学ぶのに適した場所です．タイトルを見てびっくりしましたが，解説文を読むとしっかりと地層のでき方を理解された上でつけられたタイトルなので安心しました．

入選（中高校生）：幸を育む海と大地と，そして空
撮影者：奥野由寿（長崎県）

撮影場所：長崎県五島市岐宿町岐宿　城岳展望所

審査委員長講評：地元の高校生がスマホで撮影した作品です．力強い作品ばかりを見ているとくたびれてしまいますが，その中でこのようなのんびりした作品を見るとほっとします．解説文からも郷土愛が感じられ，ほのぼのとします．遠くに見える島や海に写った雲も良いアクセントになっています．

佳作（計13点）

惜しくも入選には至らなかったものの，より多くの優れたジオフォト作品を発掘するために「佳作」を設けています．作品画像は学会HPで紹介します．

- 「ウェブロック」原澤　宏（埼玉県）
- 「芥屋の柱状節理」小松原純子（茨城県）
- 「白いコウモリ」島村直幸（福岡県）
- 「人々の営みを支える、息づく大地」八田章光（高知県）
- 「滝雲」三浦　光（大分県）
- 「湖底出現」都筑和雄（愛知県）
- 「巨大エイリアン」長谷　洋（和歌山県）
- 「波の舞」伊藤修二（茨城県）
- 「竜串海岸」加藤昭七（奈良県）
- 「御輿来海岸の砂紋」松浦　寛（福岡県）
- 「断崖絶壁の絶景」藤田文子（滋賀県）
- 「断崖絶壁」野波和音（東京都）
- 「異国情緒」永井秀和（千葉県）

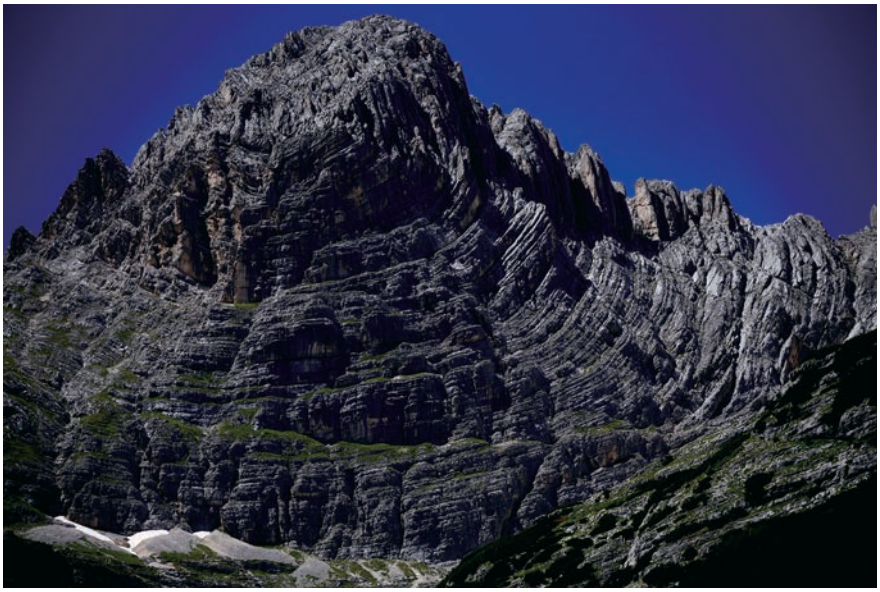
※入選作品，佳作の各作品画像や撮影者からのコメント，地質学的解説は学会ホームページ「地質フォト」のページに掲載しています．

優秀賞：橋杭岩
撮影者：根岸桂子（富山県）

撮影場所：和歌山県　橋杭岩
審査委員長講評：橋杭岩は国の天然記念物にも指定され，多数の写真が撮影されています．この作品の良いところは魚眼レンズを使い，従来にない構図で橋杭岩を捉えた点です．早朝に海岸まで降り，良い撮影ポイントを探しまわり，太陽高度が良くなるまで待つ．良い写真を撮るんだという心意気が伝わってきます．

優秀賞：褶曲
撮影者：西出　琢（千葉県）

撮影場所：イタリア　ドロミテ
審査委員長講評：ドロミテはアルプスの南部にあり，冬はスキー，夏はトレッキングの名所となっています．私も 30 年ほど前に訪れましたが，このような見事な褶曲があることは知りませんでした．褶曲に斜めから光があたっているために力強い作品となっています．スケールに登山客などが入っているとさらに良かったかもしれません．



ジオパーク賞：巨人のげんこつ
撮影者：長谷　洋（和歌山県）

撮影場所：和歌山県　白浜町　番所山の海岸
審査委員長講評：アーチ状の地形は全体を撮りたくなりますが，片側だけを切り取って迫力のある構図としました．モデルの女性の配置や大きさも適当で良いスケールとなっています．この女性がどうやってここまで辿り着いたか，無事に戻って来られたのか，少し心配になってしまいますが…….

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp